

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

八江萩名所園画

田



ル 4
303
4



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
Tejima

呂
門
號 303
卷 4

八江菽名所圖画肆之卷

目錄秋之部上

金谷天滿宮

同圖

同祭禮之圖

三江晴嵐

一本松荒神社

蓮正寺

濡佛之圖

今宮八幡宮

德隣寺

養學院

隆景寺

秀岳院

滿行寺

吉見橋

安養寺

庚申坊

慶安橋

水車之圖

田中荒神社

同圖

金毘羅大權現社

法光院

同圖

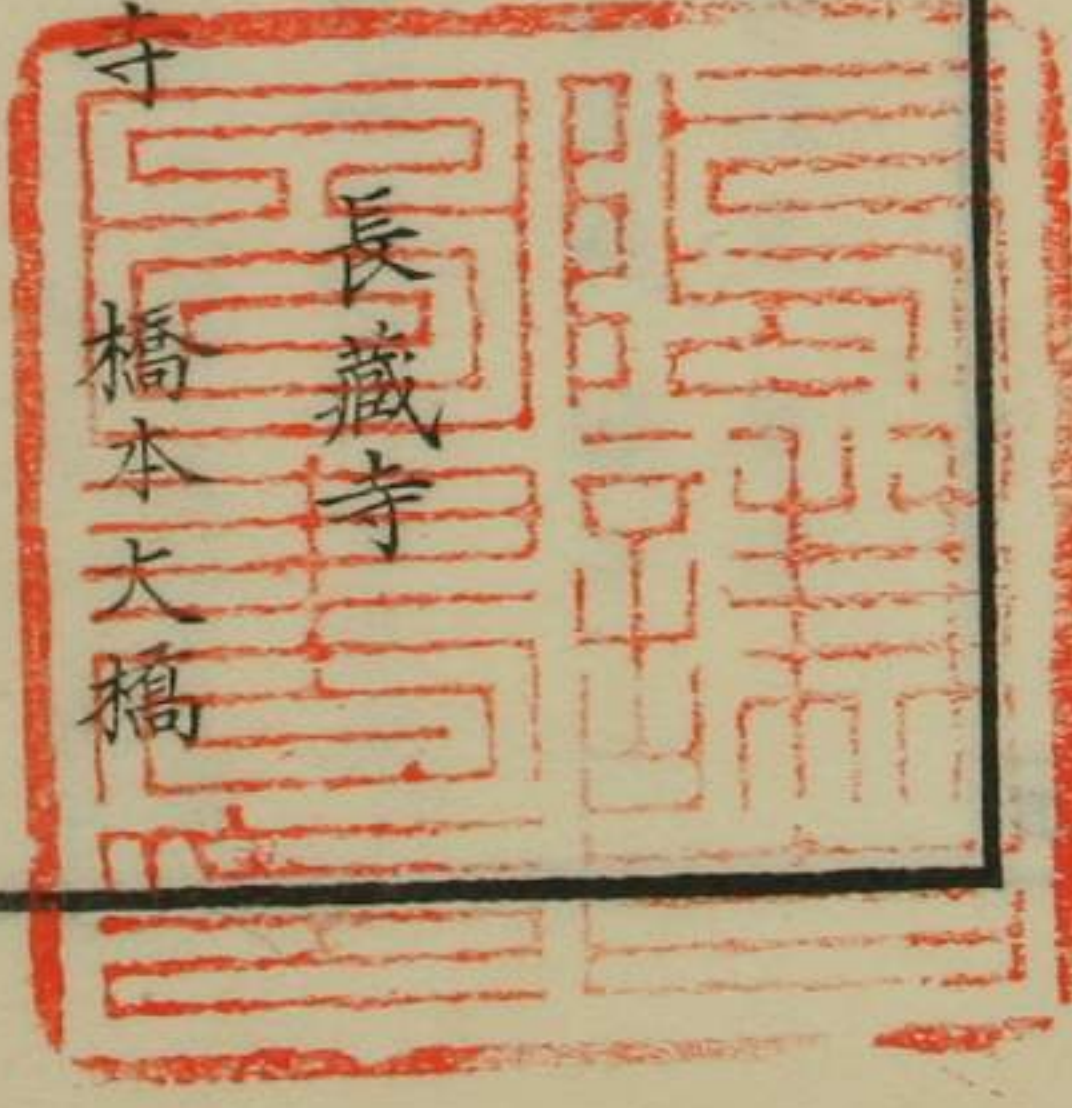
紺機屋町

蓮池院

同圖

西光寺

一乘院



長藏寺

橋本大橋

大正...

明圓寺 相場所之園 客屋之園 清光寺

同園 光善寺 光明坊 藤江落雁 三千坊

瑞玄山報恩寺 端坊 法華寺 花松坊

埵天神社 長壽寺

以上四拾五條

八江萩名所圖画四之卷

木梨恒充 著述

秋之部上

山縣篤藏 補正

金谷天満宮社 椿町大城戸の所あり舊地ハ當所より少

後の方より是を古天神といふ

古天神地横山氏某の居宅にて前園にまつる所の鎮守天神の業祠

を引けるものありとそを社傳に曰往昔文治二年の春鎌倉右府

將軍頼朝卿大日本總管領の時佐々木四郎高綱長門國守

護職として當所へ下向せしきり人民安全のためとして同

七月十三日筑州太宰府より勸請せし所にて一國一社乃

總鎮守とせし神社なりといふ後改めて長門の國第三の

宮といへりとそ中ニ就き廢類して久しかりしを享保年
間ニいつり公より御勸請ありて本社回廓御修造成てい
よく結構を備へられり初の地 濁り淵別當ハ陽明山正燈院にて
本地佛十一面觀音臨家大照院ニ屬す當寺ハ始め藝州吉
田ニ在て知足院といふ夫より山口常榮寺の境内ニ迂り又
轉して享保年中當社の別當となせり

祭ニ神菅公の御本像ハ泰巖公の御守護神なりと云
祭禮ハ十月十五日より十六日なり此日神輿御旅所へ御
幸ありて湯立神樂舞等を執行り供奉のまじくをい

とんは玉鉾を持てるられハ白幣を捧ぐるあり隨身華
美子ハ涼傘ニ花をかき輿ニ乗れる別當馬ニ跨り大行
司小行司或ハ平安湖の手廻備とて對管ニ行列を正し六
尺の奴子ハ脛高くかけて七五三を踏らる寸まハ先歩
行の往襲ハ声傘回し艸履舞の業其外市中の町より
あはしい屋臺山車の色々善盡し美尽し装ひ行きなほす
り道路も耀くころりひききとまらるハ實ニ太平の美
りして市中心裏く計がらる形勢なり

有栖川幸仁親王の真筆

同御
寄附

華表
掲額

天満宮

鳥居一基ハ御先手二十五組
よりの寄進して享保十八年

拜殿
掲額

て満ふ

法教院宮の真跡

拜殿狐格子の左右の柱に掲げ聯

高樓掲額

外感樓

同御筆
二玉門
の額
二王八寛延年
法林院様より
御寄附あり

法林院様より御寄附あり

文法院様より御寄附あり

小笠春庵筆

碑一基

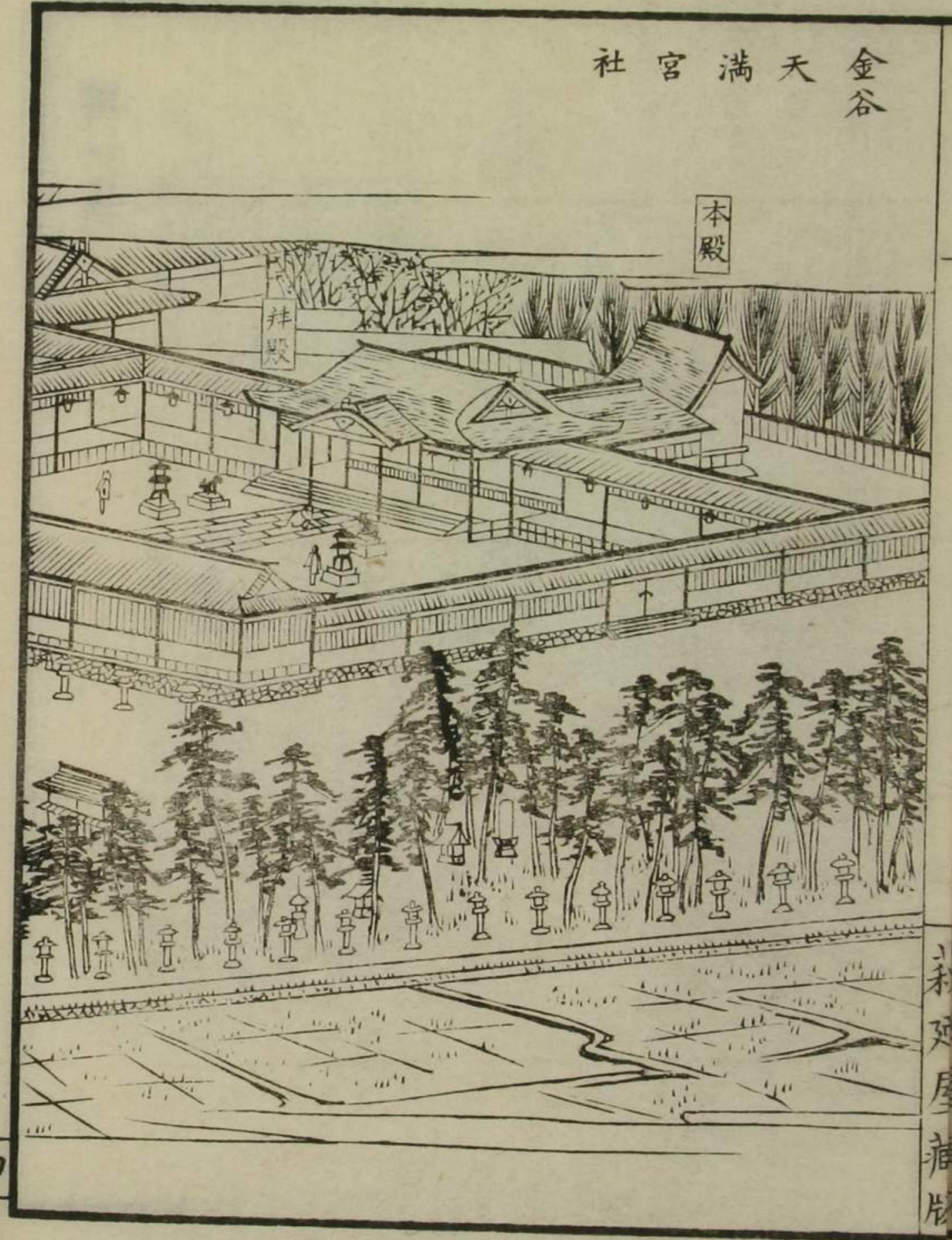
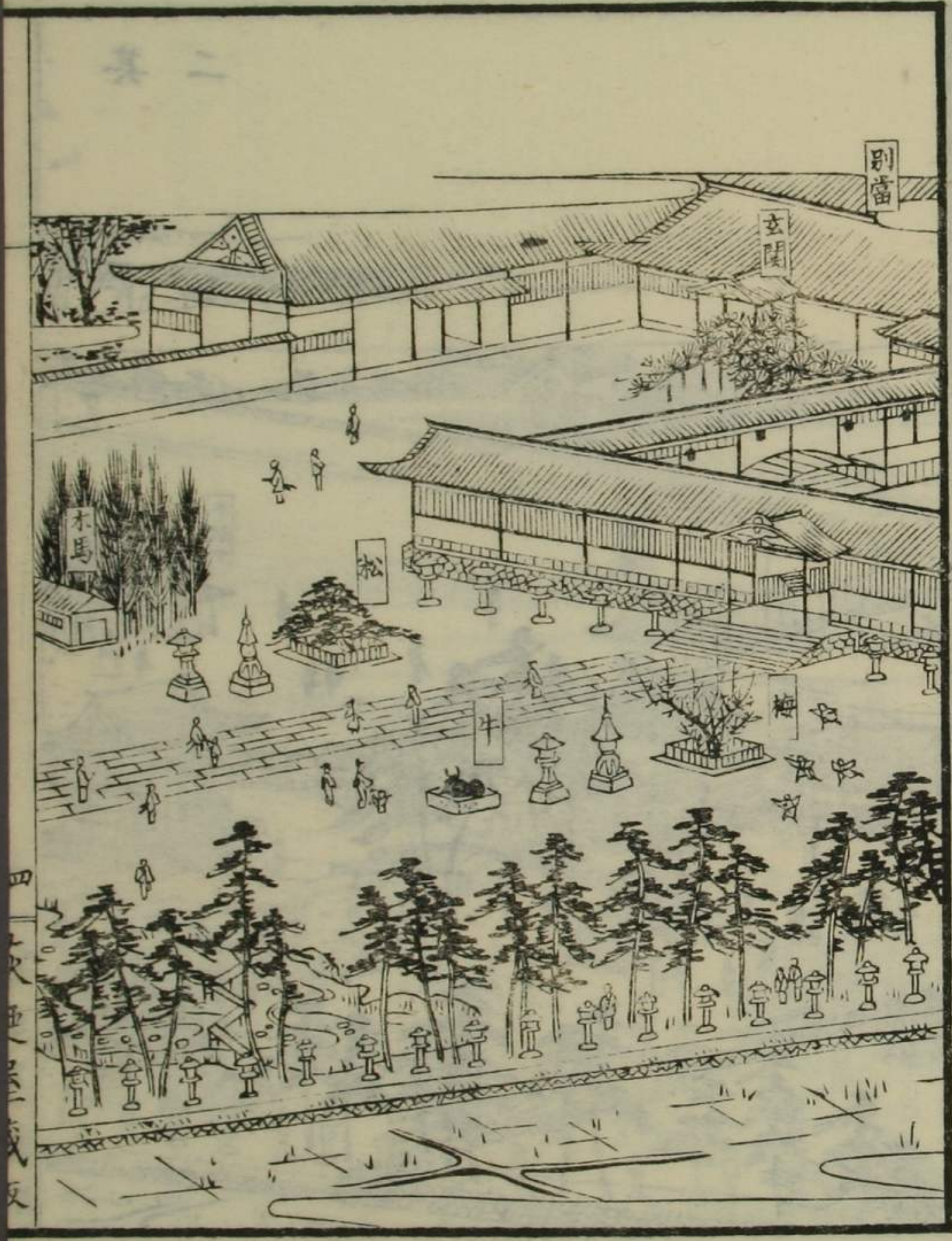
福壽を祈るハ生類をたすけよと云へり実ハ放生
乃ち其のあらんを道に貴徳毎の五日十五日ハ境
桑令一 菖蒲夜不ちひてちハ其の枝ハ降り魚
ハけ池の水ハ遊ハ一免て神佛守護の万一の思何ち
むら福壽祈念の最上の功徳ありんち文政庚辰の
初冬十月十五日
徳松菴鳥強誌

菅廟の碑碣

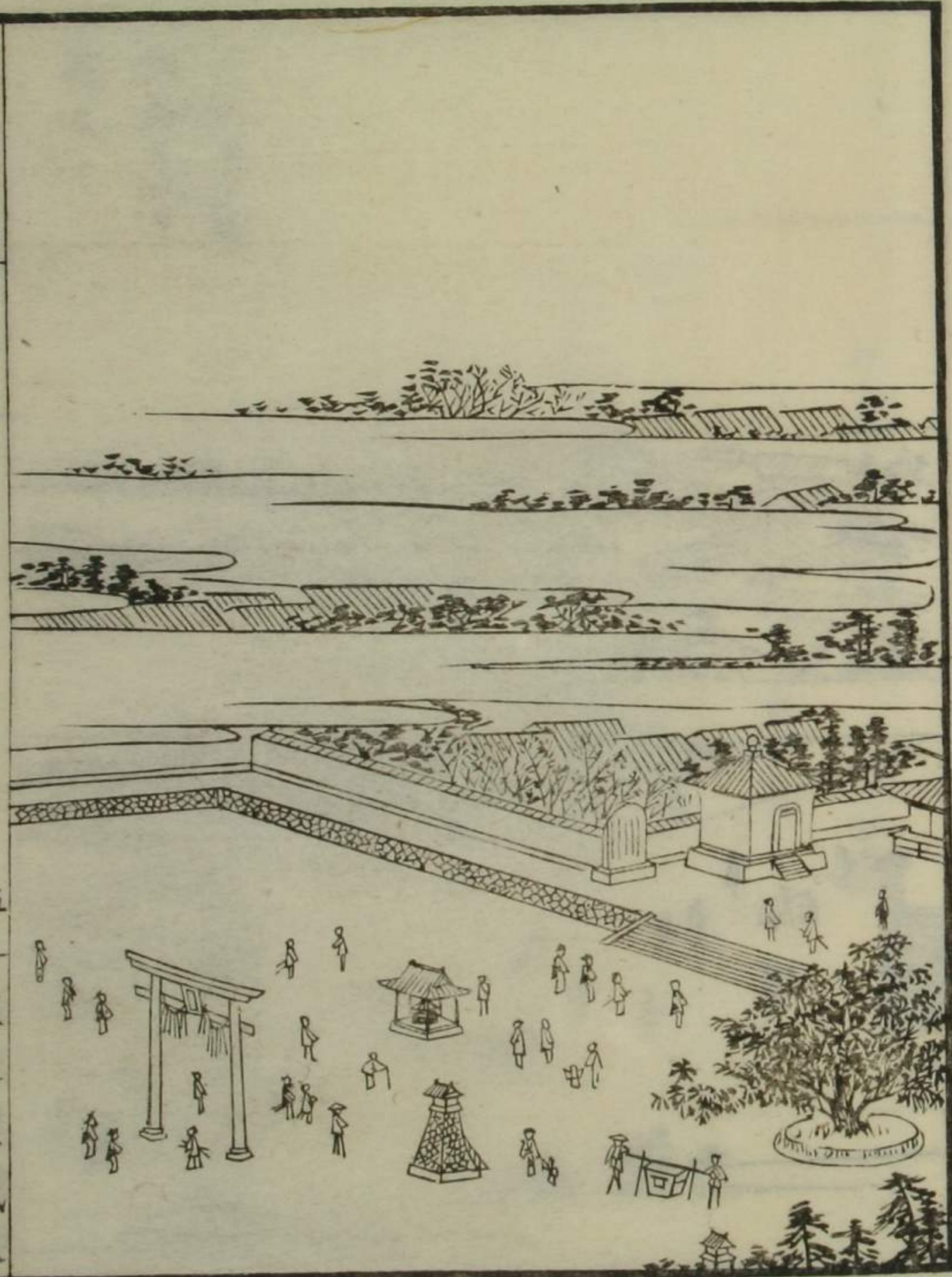
車藏の左コあり
文長多れハ畧寸

御判物寫

一 菅廟の碑碣
二 菅廟の御判物寫
三 菅廟の御判物寫
四 菅廟の御判物寫

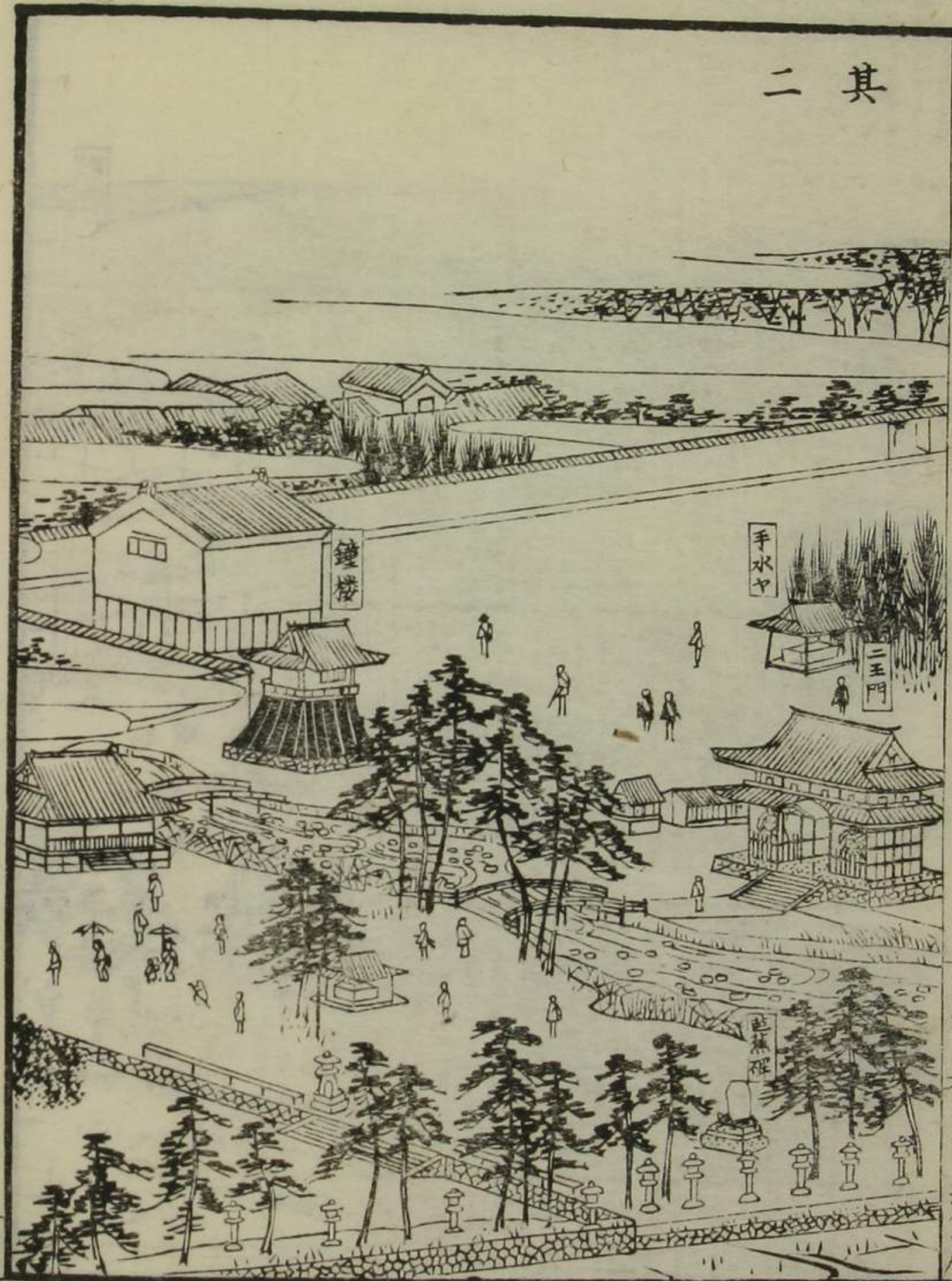


耕殖屋藏



五

其二



新選屋講

四

其三
御城下入口
大城戸の圖



新選組
御城下入口

卯月廿八

西条園

新選組
御城下入口

長列第三段了満中造名を
仁先院判并高父伊賀守
讓怖く旨裁利致造る事
了る候可好案し候

天正十一年
七月廿百

程元氣

六
新選組
御城下入口

太宰府大鳥居一行の寫

西の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて
其の山にありて

系内院系目場別当
大鳥居

永椿山長藏寺 同所より一丁より南にあり濟家の禪

宗として天樹院に属し當寺開創を正屋慶因和尚と号し

初當寺ハ曹洞宗として二世信明座元慶崔和尚より當宗に遷

る本尊聖觀音ハ惠心僧都の作にむらゝハ濁淵一本松の所

りりりを慶長年間うつさまゝとを 始松雲院の
地と代る

觀音堂 本堂の前よりあり本尊聖觀音ハ一尺三寸の
黄金佛として大元國曹績とよりの作に 灌佛蓮臺 門前より
り六尺余

の坐像三年の二月十五日に灌佛會として蓮臺の前より大尊を焼てもろく
乃疫災を避んとす此夜参詣人市中近在をいせし群集夥く世俗此佛の為
に當寺を濡
仏とりし

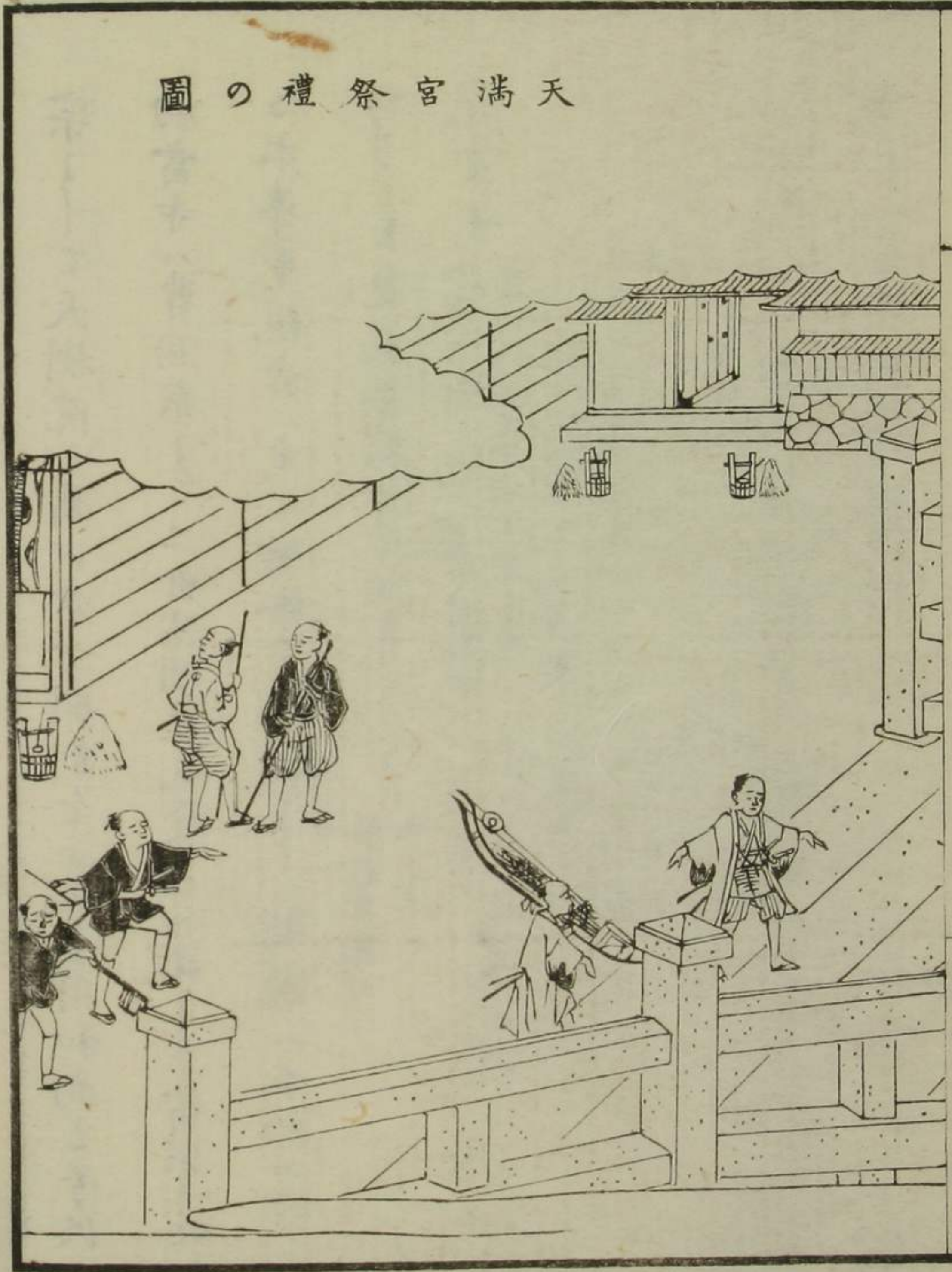
三江晴嵐 いろへ八江まき八景の一として金谷古天神

宮の所ちりといひ傳へり

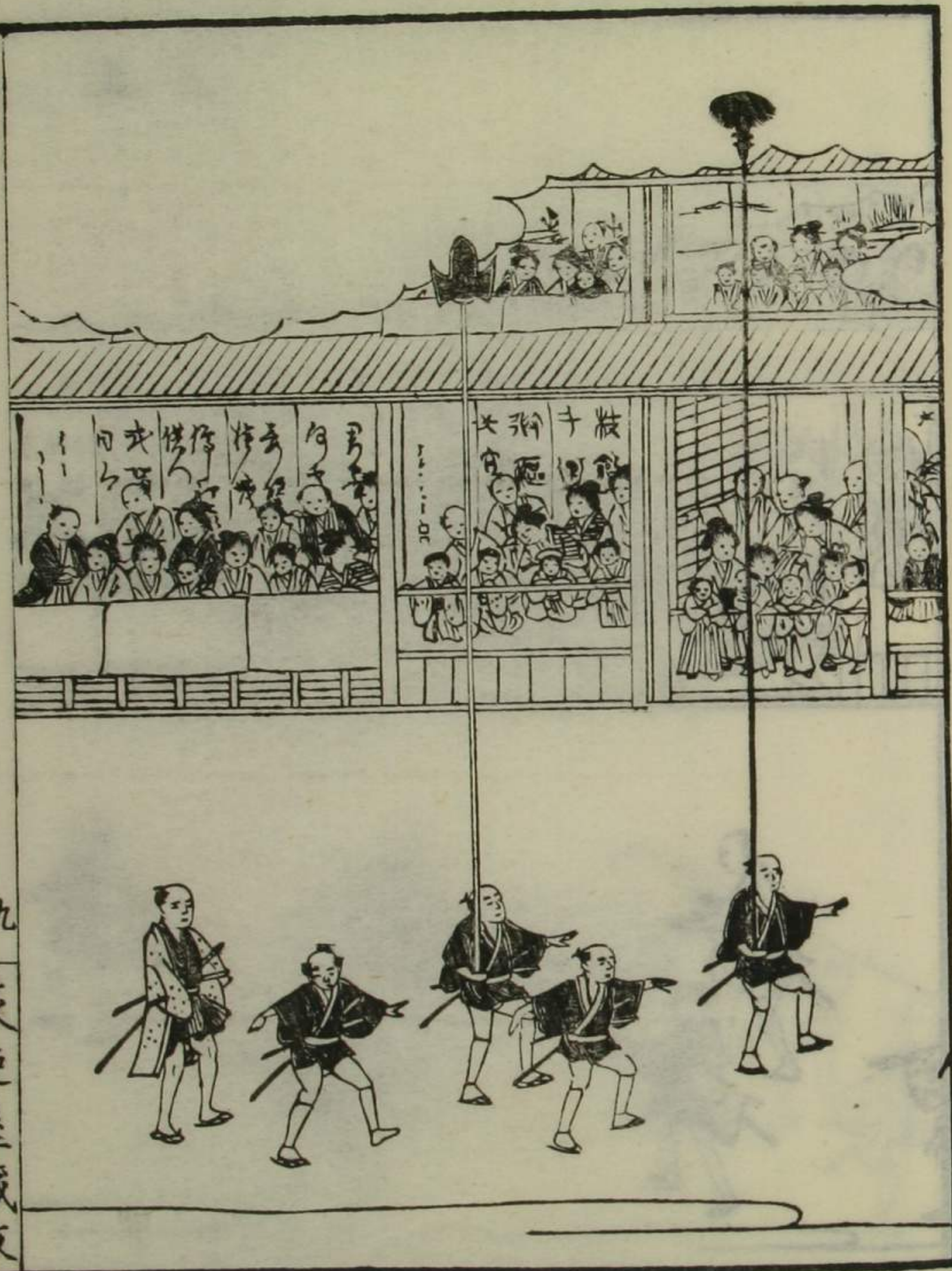


八
 秋
 西
 祭
 儀
 式

天満宮祭の圖

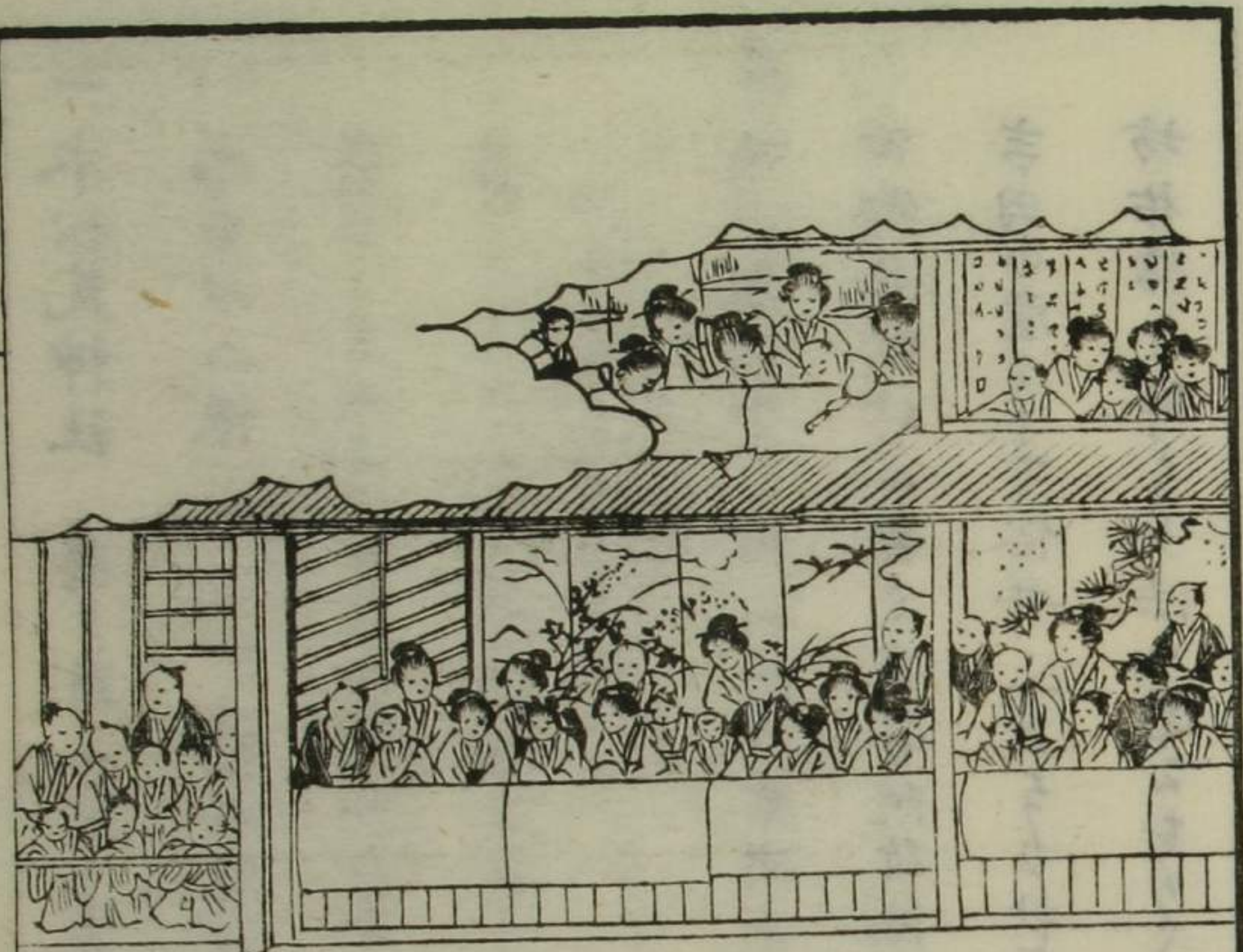


天
 満
 宮
 祭
 儀
 式



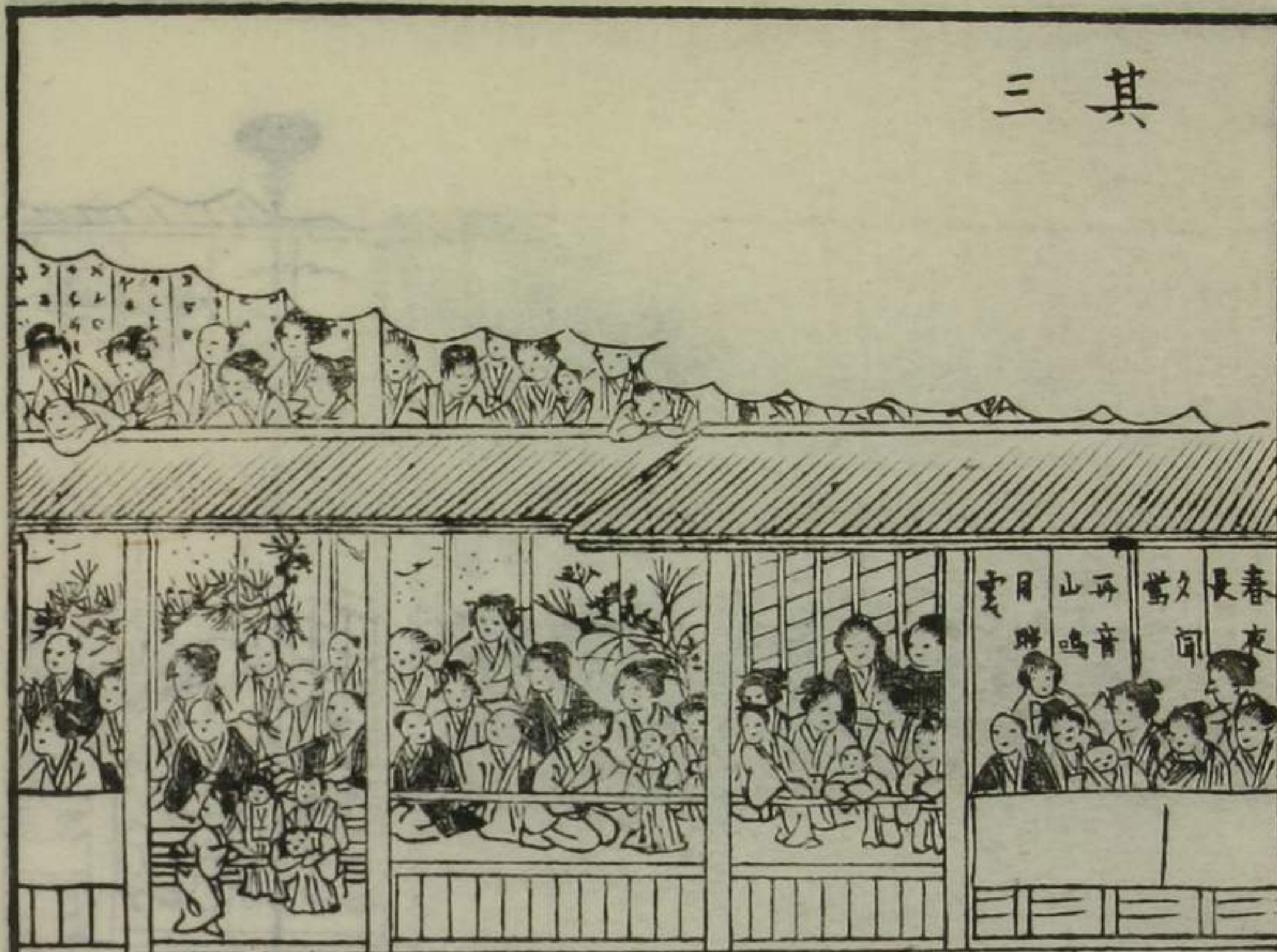
二其





十
長
海
程
載
版

三其



二
未
交
廣
積
片

一本松荒神社 濁り淵あり社司佐伯氏奉祀す御神体ハ

木石の二像ありて束帯衣冠の御装束之當社ハ舊より勸

請せしものとゆれと傳記にひて詳なり終るゝ拜殿の上ニ

書しつゝハ元祿二年再興とあり

古老物語ニ云當所を矢兼村といふ小名ありそハむろゝ大内尼子の西氏戦ひし時此一本松ニ夫かりていくらも止まりしとそ

龍橋山蓮正寺 椿町中程東側ニあり一向宗ありて安藝國吉

田郷光明坊小属寸本尊阿弥陀如来を安置に開山覺圓ハ

吉田の産ありて俗井上氏あり壯年の比より雜髪して光明

坊祐信を師とて法の道ニをりし終るゝ同國井上村ニ一精

舎を開きて住居せり後慶長の末此地を賜ひて創營すといふ

寺寶 懐紙一枚 梶井成胤二品親王の真跡

橋本大橋 橋本町と椿町の間ニ架す銘いもと考へす 世俗橋 本大橋

又ハ金谷大橋をといふ 或ハ青苔橋銷魂橋をといふと是を證とせり

りのをさす元和二年始めて架くといふ長四十八間ニより

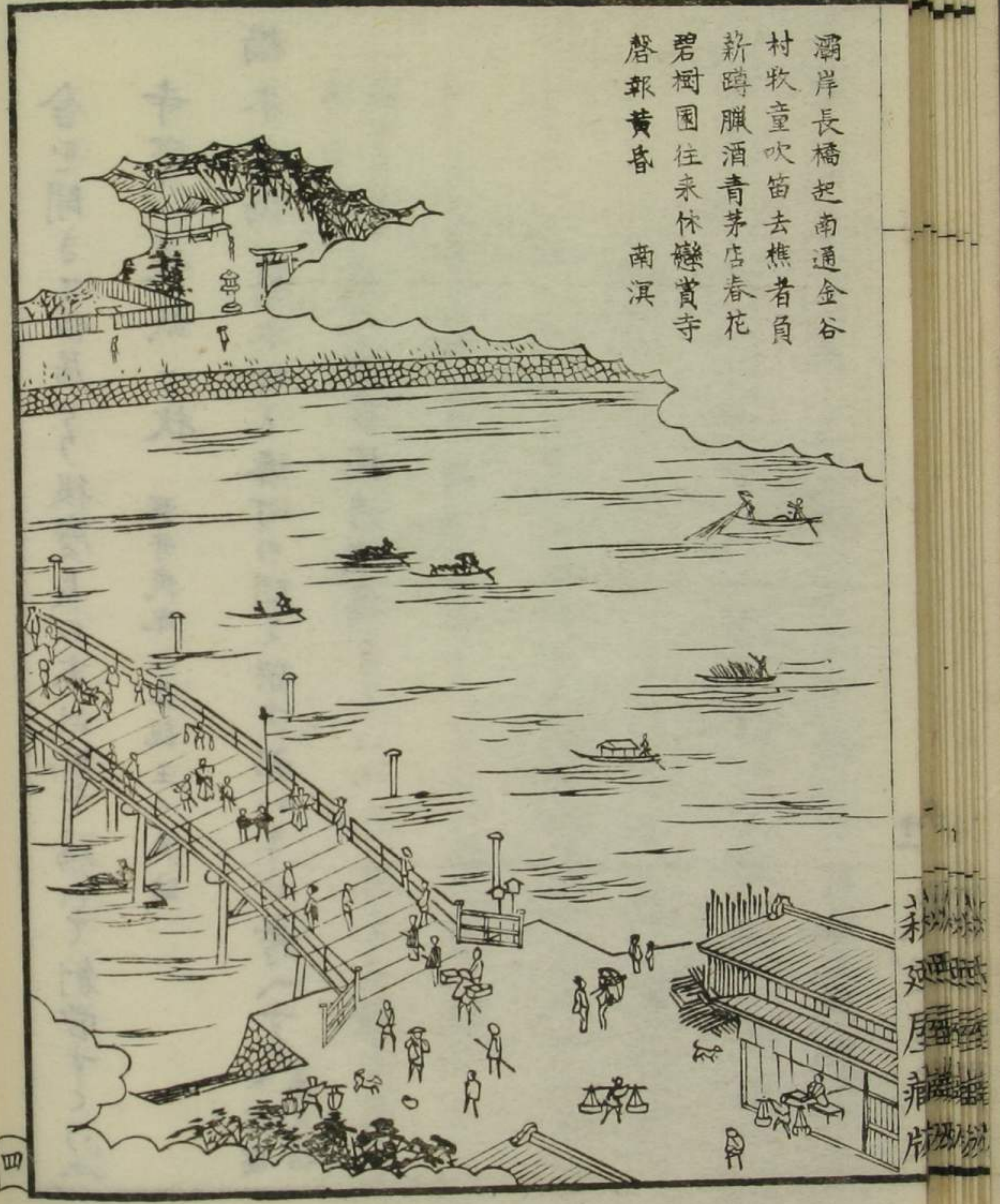
ていろは橋といふ水上ハ奥阿武郡山田村神田の内より出て流敷

をあらは幾邑とちくうらうらとて川島太鼓灣ニ落合是上

て松本川と二つに分れて此川筋ハ橋本より櫻江玉江を経て

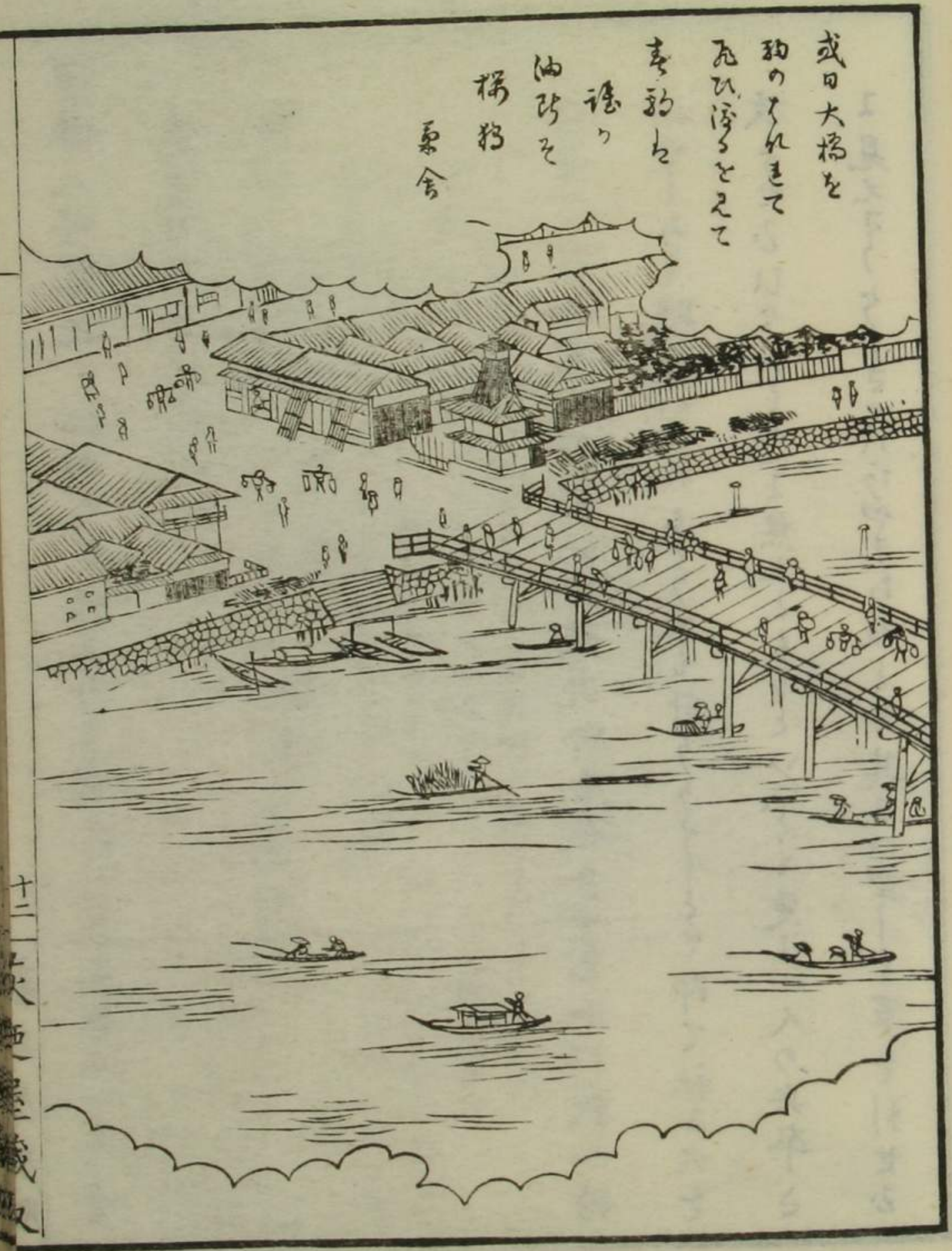
終る海ニ入萩第一の大河たり川幅九百間余も有ぬへ

瀨岸長橋起南通金谷
 村牧童吹笛去樵者負
 薪躡臘酒青茅店春花
 碧樹園往來休戀賞寺
 聲報黃昏 南溟



新
 延
 屋
 精
 片

或日大橋を
 幼のくれきて
 瓦ひ濡るとえて
 春物と
 語り
 油所を
 橋
 栗舎



十
 大
 橋
 橋

伊豫八幡宮社 江向の中程あり當社ハ萩五社の一として

大宮司河野氏奉祀す

祭神

應神天皇 三女神
仲哀天皇 神功皇后

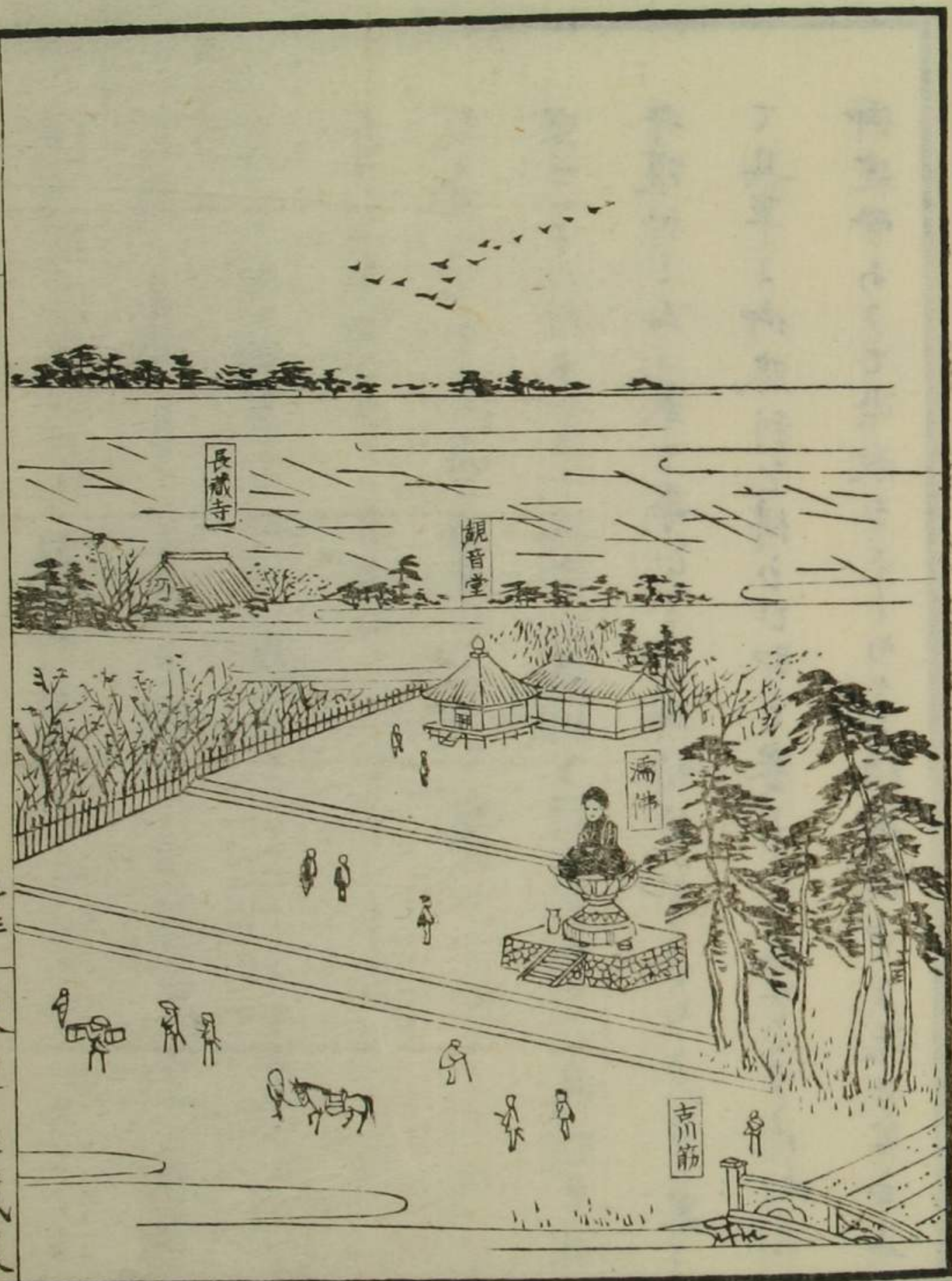
相殿

岩尾天神

此岩尾天神といふも倉江濱浪うちきハ鼻標といふも岩あり古の岩窟より出現まじく々々尊像さきゆゑハむら御城地御開闢のみまより岩國より御手傳として大河をち堀きせられける時靈夢よりて此尊像を岩窟より得て 則當社に納め奉れりとす

社傳一曰往古 洞春公伊豫國新居郡金子邑御合戦の時

此やろく賊徒かれをうんと計りくくして即て社に火を放とせむひんれを忽ち焦土とちるといへども更一人の兵卒と見えさうくくさしてハチやまりぬとして其日ハ空しく軍を引せむ



ふまゝ廿日あまりを経て御出陣ありて水の所を通らせし
ふに彼の社跡とばかりき所より御馬も進むとありて風ハ磔
をうち雨ハ篠をつく計り之是ハ奇しく怪しく供奉の人にも
ども心を動かし君恭惟するひざるはこれ則神の崇ら
む所なりんとて直に指麾をくりて出陣のま向く一向
宣せざるハ此ハ此の一戦幸々勝利を得りおちかくハ我城中の
守護神とあり奉り尊むへと御祈誓をそこめられざる果
て其軍ハ御勝利を得む即て賽ふとて社をわくの如く
御建營ありて崇敬するにめぐる猶御城中ニ遷させむ

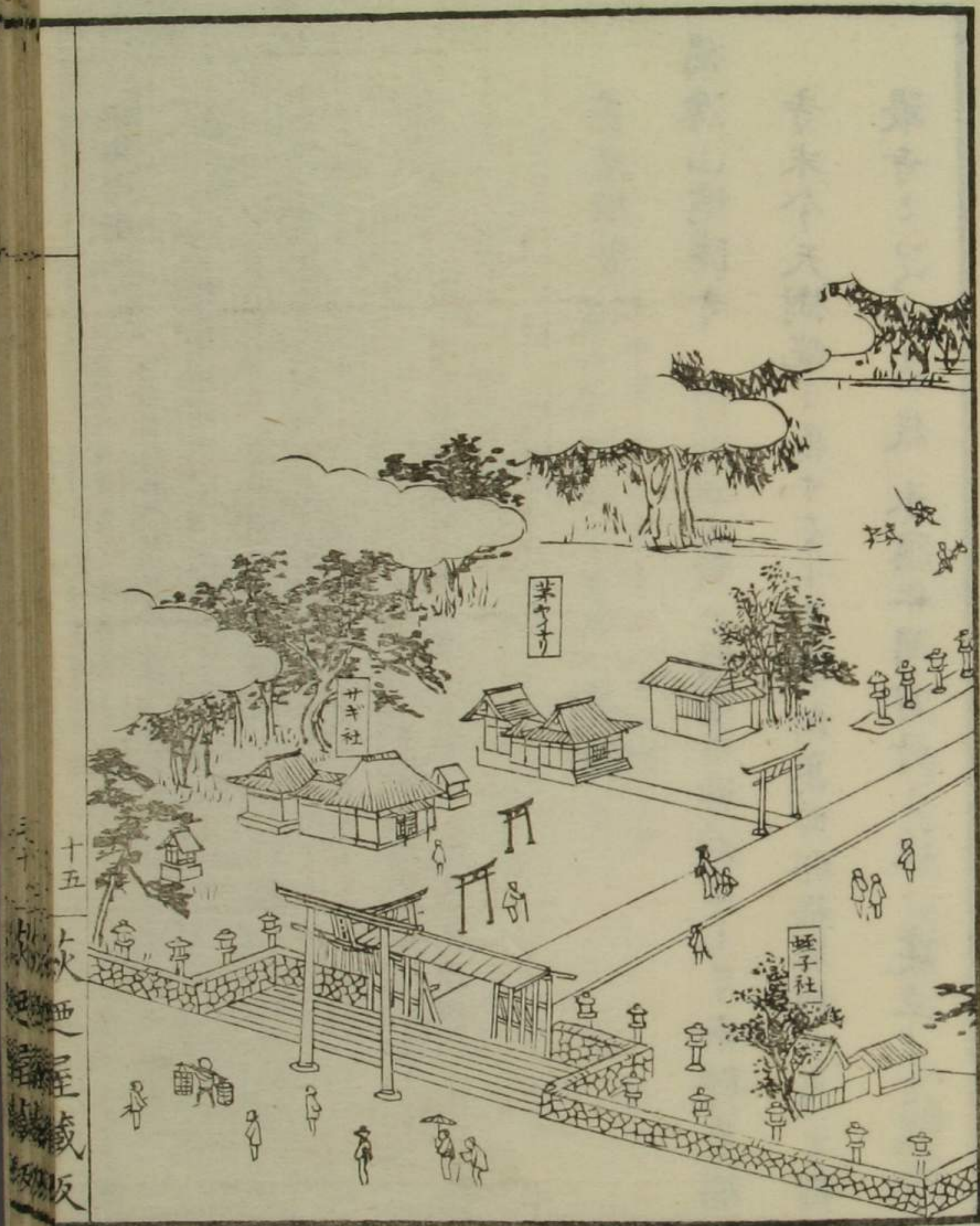
御思のハありとくとも其比戦軍の半されハ御本意お
く過ぎせむいしと大照公御心を継せむひて則當所へ御勸請
ありて尊仰倍せられり比ハ慶長の末つくとて

例祭ハ九月十八日より十九日まで廿 御名代奉幣使

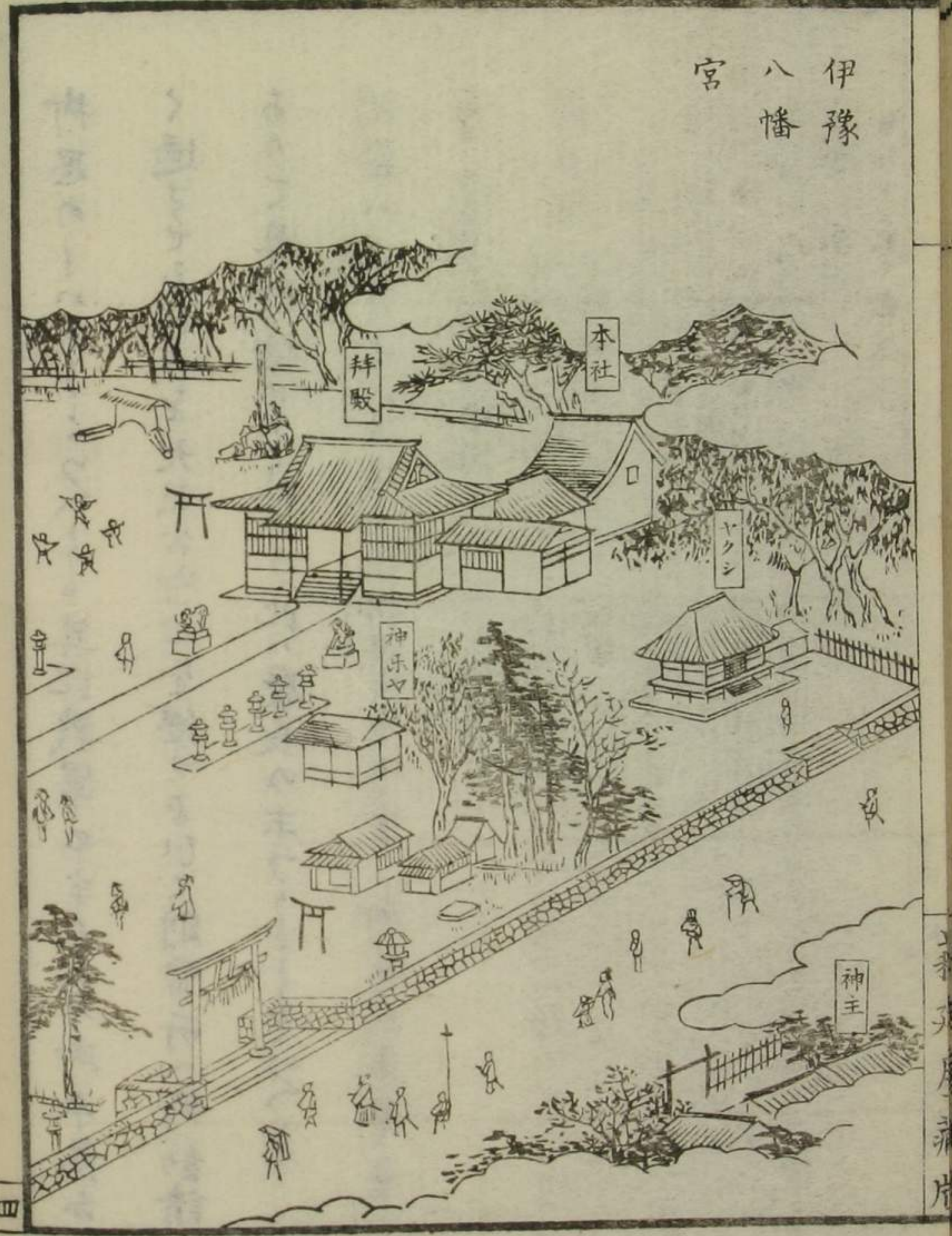
ありて其式殊々嚴格ニ執行せらる

蛭子社

裏門の左ニあり元禄十五年の勸請より和智知貞とつふ人の
守護神なり一惠比須の木像とつふ古老ものあり云む
大官司河野氏門を叩きて肥前ハ内おきり音ちふりれあり主
早くもきゆけて在宿よりとく通らせむへとて奏者をもて書院へ誘到
る即て主出對ふ客ひとりもいそはあやとすうらうらう引立
鳥帽子ニ狩衣を着し三尺余の蛭子の木像床の上ニ安坐し是ハ
奇特の靈像なりとてここに業祠
をづくれ崇信する



十五
大
西
屋
蔵
版



伊豫
八幡
宮

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

鷲大明神社

本社の左あり岩國家より勸請す。所は始め豫州あり元和五年先私法寺の地を移す後寛永七年當境内へ勸請す

龜宮

文祿年間小畑うらの漁父なりたゞりかゝりて網のうちに大きやりるる龜を得りりき得りのことを市中に出て是を鬻ぐんとすに忽ち病

發し辛苦煩りし顛動す是ハ龜の崇りとんと

恐怖しやてかの龜の冥をのちしひ祀れりとそ

藥師堂

本社の右ありありて文明年中大内義隆の建立して當所の地主ニ大内家判物添書等今河野氏ニ存す當藥師尊像佛も之ハ恐

らくハ神ちらん此堂の傍ニ春日社

ありといへり依て古春日日の名あり

茅屋稻荷

鷲社ニとられり小倉氏の鎮守神なり世俗をくらいるりといふも此故とや

福源山徳隣寺

同所西ニ對し臨家の禪刹なりて京師東福

寺末今天樹院ニ屬すなりめ藝州高田郡福原村ニありて櫻

嚴寺といへり其後承應年間當所ニ遷し建立して福原

家の菩提所とす

始ハ丁川島ニ寺地を賜ふ後當地ニ轉す

福原廣俊の法名徳隣

の二字を以て寺号とし旧地の邑号をとりて山号といふとしを

兩峯山養學院

胎金寺と号す米屋町下ニありて江向のいこ

らんとすり所あり天台修驗の兼學なりてみやの聖護院に

屬す本尊ニ胎藏界大日如来を安して開山を長賢上人といふ

相傳ふ當寺ハ始藝陽ニ在て洞春公熊野成願寺の住職

長賢上人を召されて御建立したりり所ニ慶長年間當

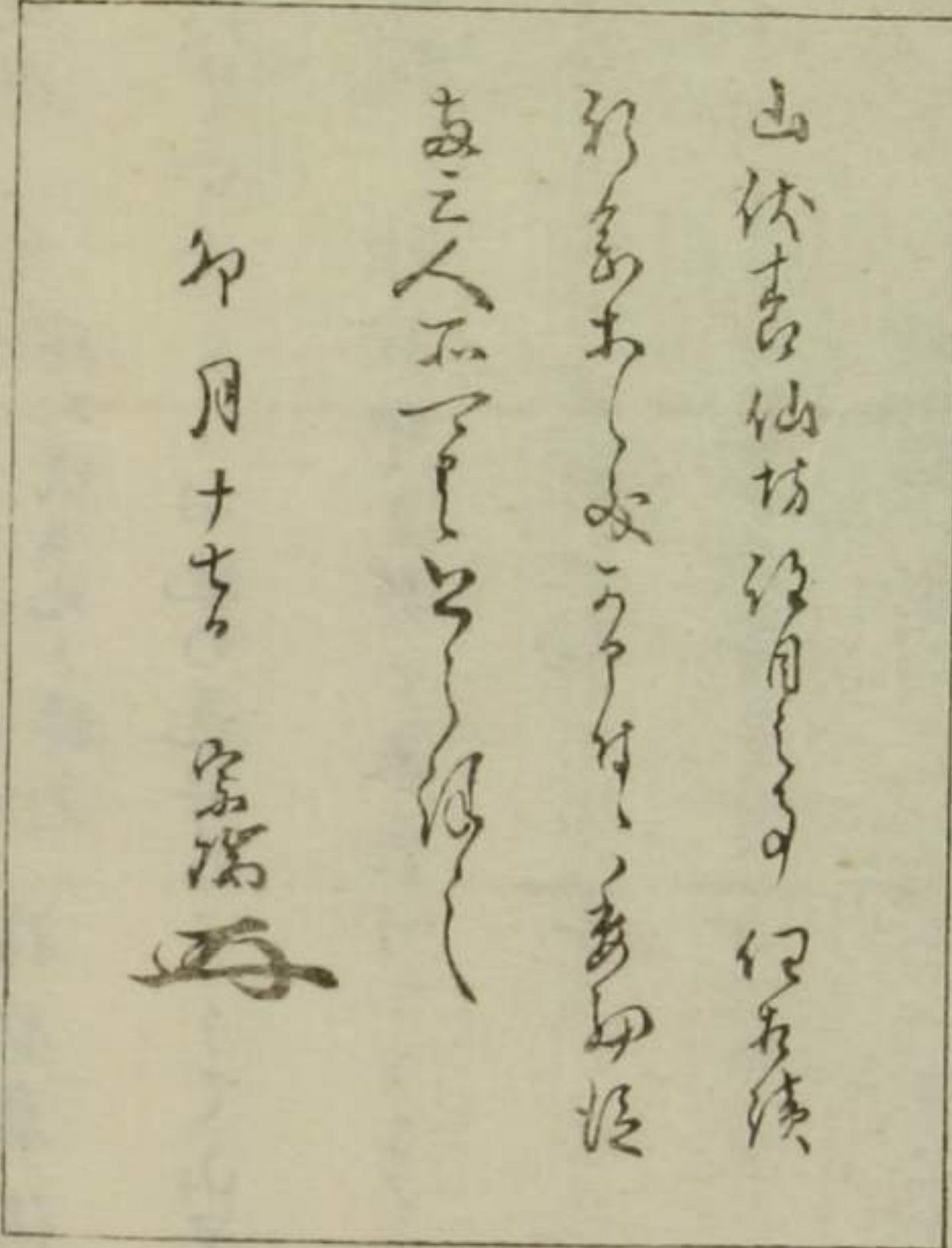
を賜ひて再建す

慶長十七年までハ養學との記書記して院とも坊とももち其後養學院養學坊とかけり又堀内ニ養學

院といふありて院坊の争論ありといふ云へり

愛宕権現堂

上面あり本尊ハ甲冑を着し。木像ニ右のこゝに劔
をさし左に幡を持て白馬に乗し五ノ御長四寸白馬三尺
の左右に後鬼前鬼韋駄天王前を行行者尊等いつれも金溜の極彩色にて
厨子の中巖
上安置す



黄梅山隆景寺

河添の本町にて櫻江涉口あり臨濟派の禪
窟にて天樹院に属す本尊釋迦如来脇士文殊普賢ハ并に
佛五大宮の作る所にて開山ハ前真如西岩周和大和尚と
て始備後州三原に在り素米山巨真寺といひ元来小早川家
累代の菩提所ニ隆景公の御靈牌を安せしより以降則御名
を以て寺号と慶長年間當所より遷り又寛永年中御再
創ありたり

隆景公御画像 一幅 筆者詳し

土居山秀岳院

江向より平安湖よりんとり田畑より

十七
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

新編 屋敷

古義の真言宗として満願寺に属す本尊に馬頭観世音を安

して此尊像ハ仏工堪度ノ作りて
廻神河内守と云々人の寄附あり脇土に不動毘沙門をたかく開山

ハ覺玄法印といふ始備前國に在るときハ三吉寺といひま

表白山元満寺といつると永正年間吉田郡山に遷して興元公

の御普提所と云うめむ後慶長年中當所之地を賜ひ即て

御法号を以て寺の号として天台宗を真言に轉せりとを

寺寶

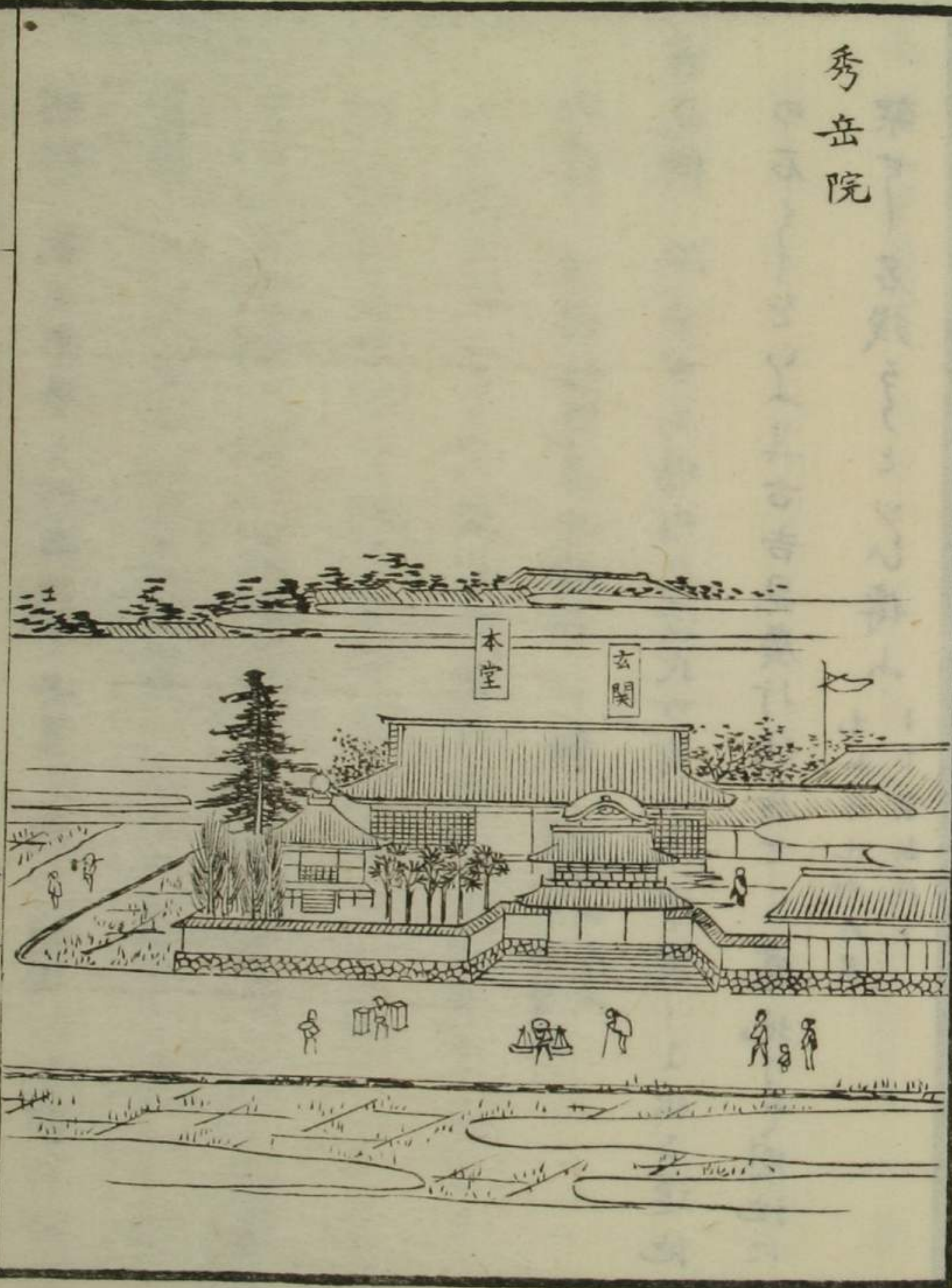
開山法印覺玄吉田郡山に召されて興元公より一首の御哥を賜
てつて別短冊を藏す此外蜀紅うきの打布銀襦の柱卷手あり

薬師堂

本堂の左より本尊薬師ハ聖徳太子御作りて榎木の一根を以て
彫刻したるものと云ふ脇土に虚空藏十一面観音ハ慈覚の作りと云ふ

浄殿山満行寺 同所後して則満行寺筋と稱し一向宗として光

秀岳院



明坊に属す本尊に阿彌陀を安置す開山祐傳ハ俗称坪井
玄蕃といへり中古天正の頃内府信長公の幕下より故
ありて御當家ニ属し數度の合戦ニ勲功を著しり豪傑
たり後終ニ鬢髮を薙て吉田の庄上殿山と云處に一字を營
みて春秋をかくる慶長中當所ニ來りて再建する所なり
寺寶 法華經隨華功德品 一軸 管公の真筆ニ
といひけり

吉見橋 平安古馬場町久芳氏の角より中渡より出る蓮池
の石をいひ其古吉見廣行住居せし舊地にて園池に
架せし名残りといひ傳ふ 元和の比御打果
より家断絶す

高輝山安養寺

同所より一丁より西あり浄土宗より長

壽寺に属す本尊阿彌陀如来ハ佛工春日の作る所より開山
と立空接道和尚といふ和尚接道ハ筑州博多の産慶長九
年當所よりきて一字を建立し初め天長山安養寺といひ
とそ五世廓道和尚より今の山号に改む又當寺ハ遊行上人
回國遊化のときり火除の寺と定められりといひ

庚申坊

同所本町一丁目中程東の側あり當寺ハ四宗

法相
三論

天台
真言

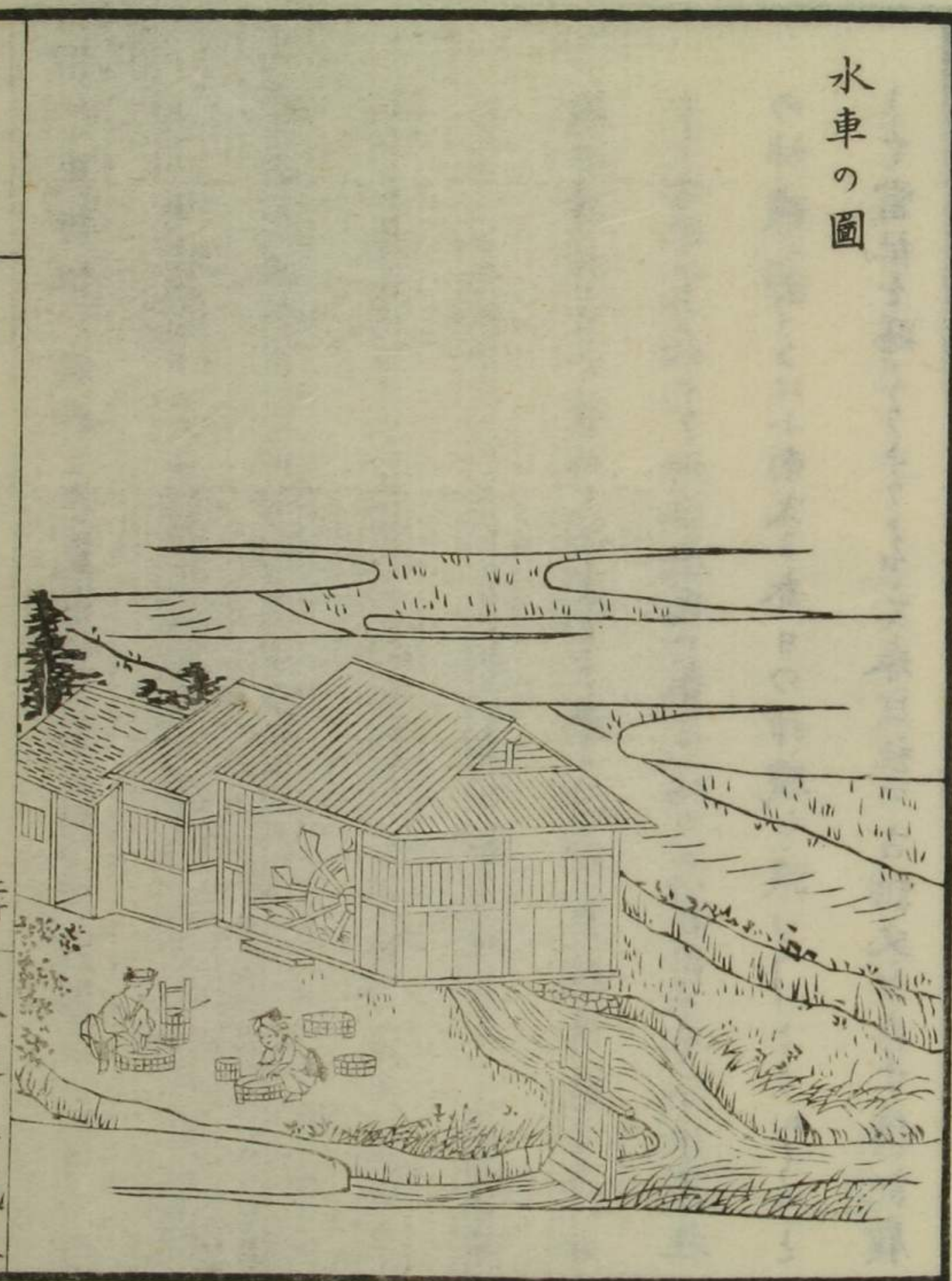
兼學の道場より浪速の荒陵山四天王寺教田院に

属す開山ハ及深法印より近比天台宗を専らんとす本尊を

青面金剛の本像よりて弘法大師の作といふ傳記詳らるる
に永祿年中の草創なりといふ

慶安橋 田中社裏門より新堀よりなる所の川に架す慶安年
間此橋をかきられより依て此号ありと云然らあれと慶安年
中よりいす新堀川にさす恐らくは溝ありてそれ
架す小橋を慶安橋といひを後新堀川出来て新にか
けられ橋も旧よりて名を負せしむる
慶安五年拵画図を
近
頃道の傍に水車を設くよりて世に水車筋とのと称す
或人云
烏田圭
巻ありハ湯浅圭巻といふ人日毎に此道を通ひて御城に
かゝりて人皆ケイアン僂まるといふといふ

水車の圖



二十
水車
圖

新編 厚積 片

田中荒神社 同所より東方一丁をくにあり世俗田中社といふ

又一本松荒神社といふはひまへ當所は大松一本ありて枝

葉繁茂せしより終に地名ともさうなり 或云當所ハ萩市中の中央
とて一株の大松を栽し

社司吉屋氏例祭ハ九月廿七日より廿八日までと分相傳ふ當社と

いふ江向地面の北よりありて享徳寺の鎮守神より一城五穀豊

饒守護神として當所へ遷坐し奉り即拜殿本殿とも公

より修營せしれり初吉屋氏の春日社の大官司として今伊豫社

の神職にあらに小南氏の春日の神職を譲りしよりかゝると

して當社を賜りしよりして春日社の古証文を存す傳記廢

きて詳しきは是より前の事ハ知れず 始ハ社坊に有し由

舊記

夫田中一本松荒神者蓋自往古此地に鎮坐五穀豐饒之神

德盛仁而福祿掌壽命神也故奉稱三寶大荒神子家之神道

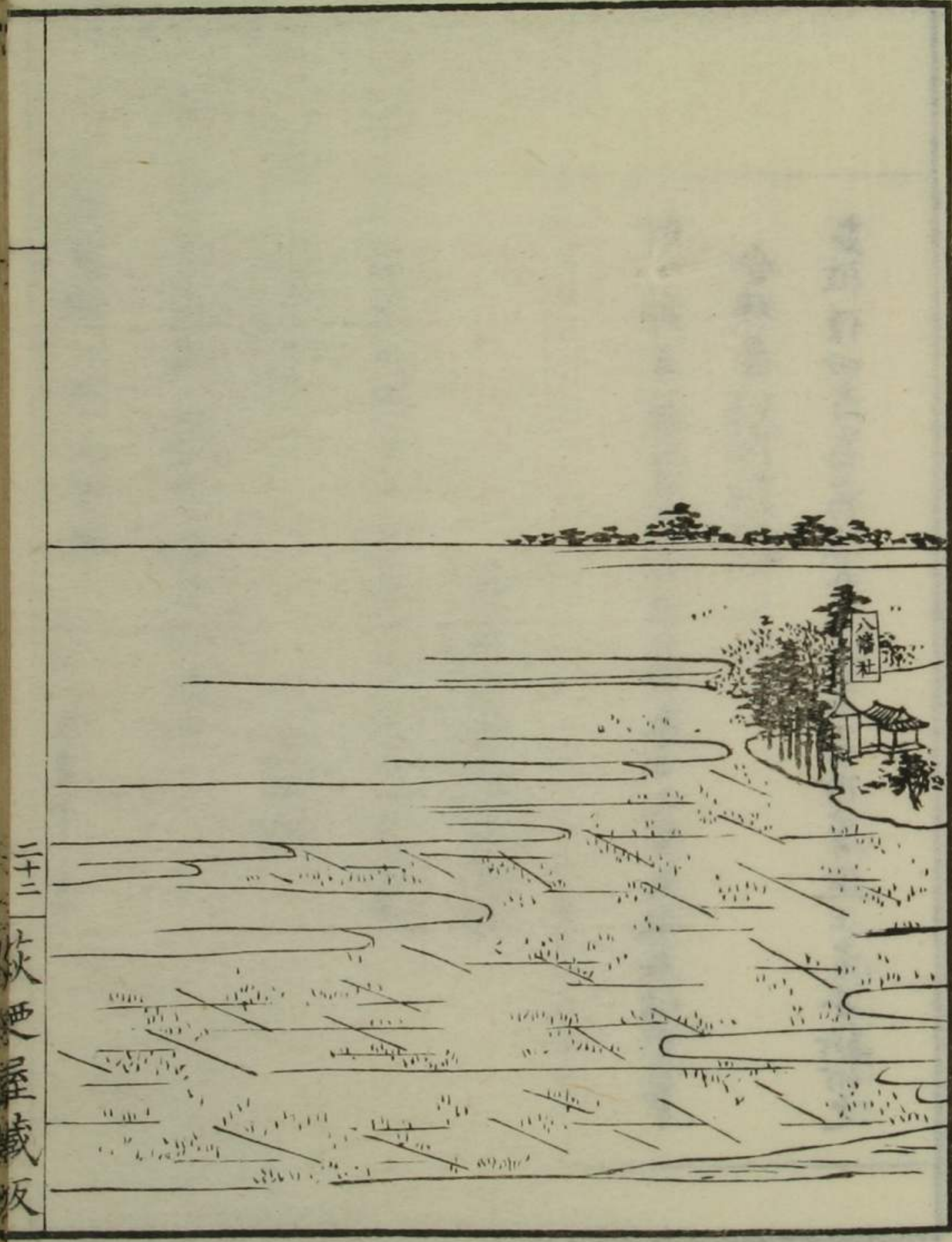
口訣大則普於天地小則於人間毛髮之數悉是荒神之明德也

外焉吉凶禍福内焉喜怒哀樂皆并無所不靡者荒神之威德

也崇敬正則荒神正怠慢則荒神怒神慮之所使然也且境内

在稻荷之神社此神福五穀之精神也振古於諸願此神未嘗

不感應以是祭事莫怠慢云々惟時慶安三年庚寅八月三日



三十二
 依西
 澤
 城
 反



一本松
 荒神社
 世一田中社と云

大田中一本松と申す
 昔云

四

新
 延
 屋
 精
 片

大般若經一部六百卷

三箱入奥書を一冊す

為父母往生兼為現當圓滿修治也

建久三年七月日

入道西證

抑此經者從吉敷庄奉票渡當庄春日宮安置

勸進入道康西沙弥

阿武郡牛敷庄見久新田之内春日之宮大般若經田之事

合坪者 善知名之内
を町ヒラタ一町

右彼經田者為高除春日宮仁為佛宇進上者本新河之

領主不可有傳考也然者天長地久之御祈禱任
先例不可有相違狀如件

文明十一年己亥二月五日

三和 矩祐

山田 兼康

春日宮別書

安養寺

稻荷社

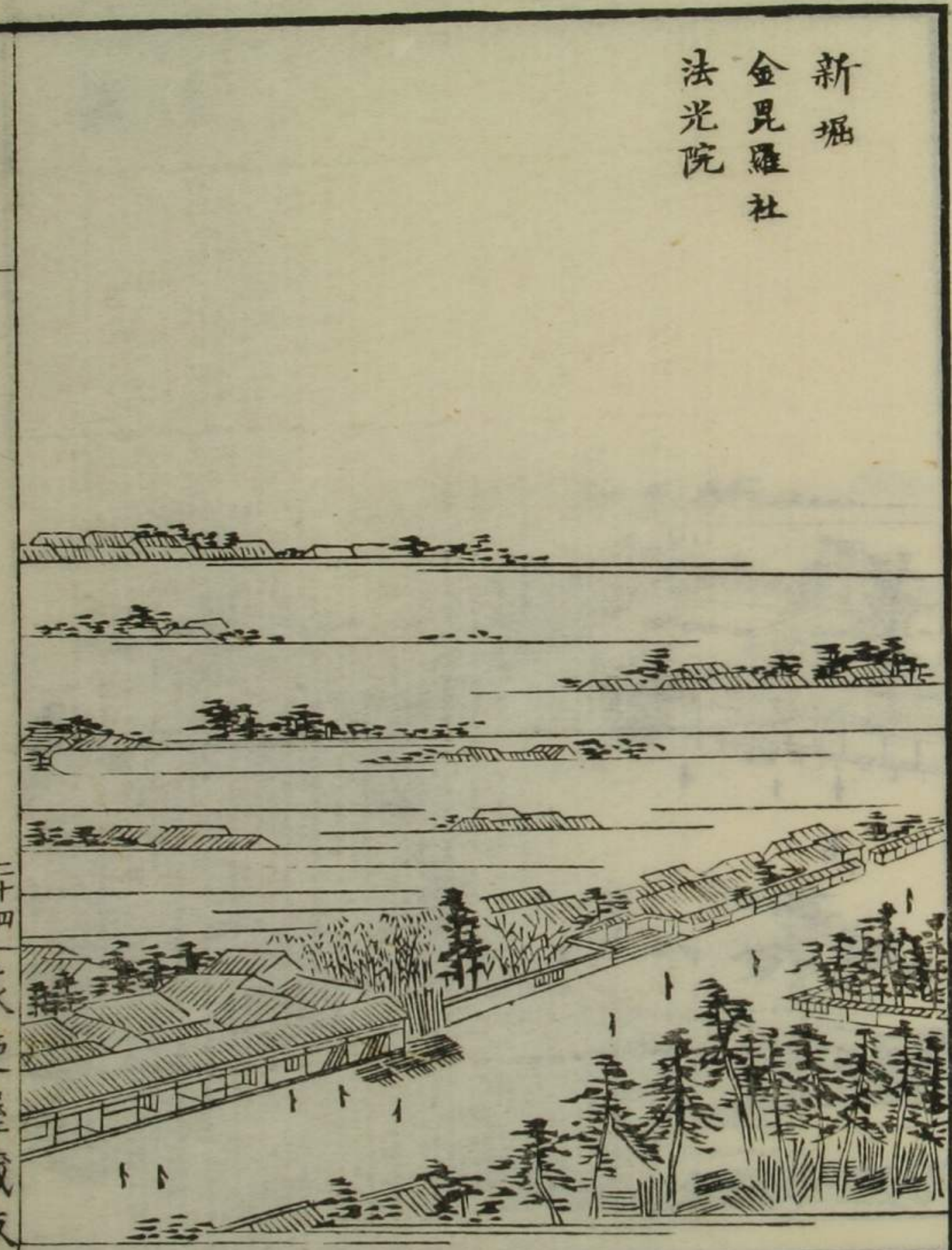
本社の右
にあり

金毘羅大權現社

新堀を江戶屋横町にあり

祭神ハ天狗の木像を安戸相傳山當社始の田邊氏の鎮守

新堀
金毘羅社
法光院



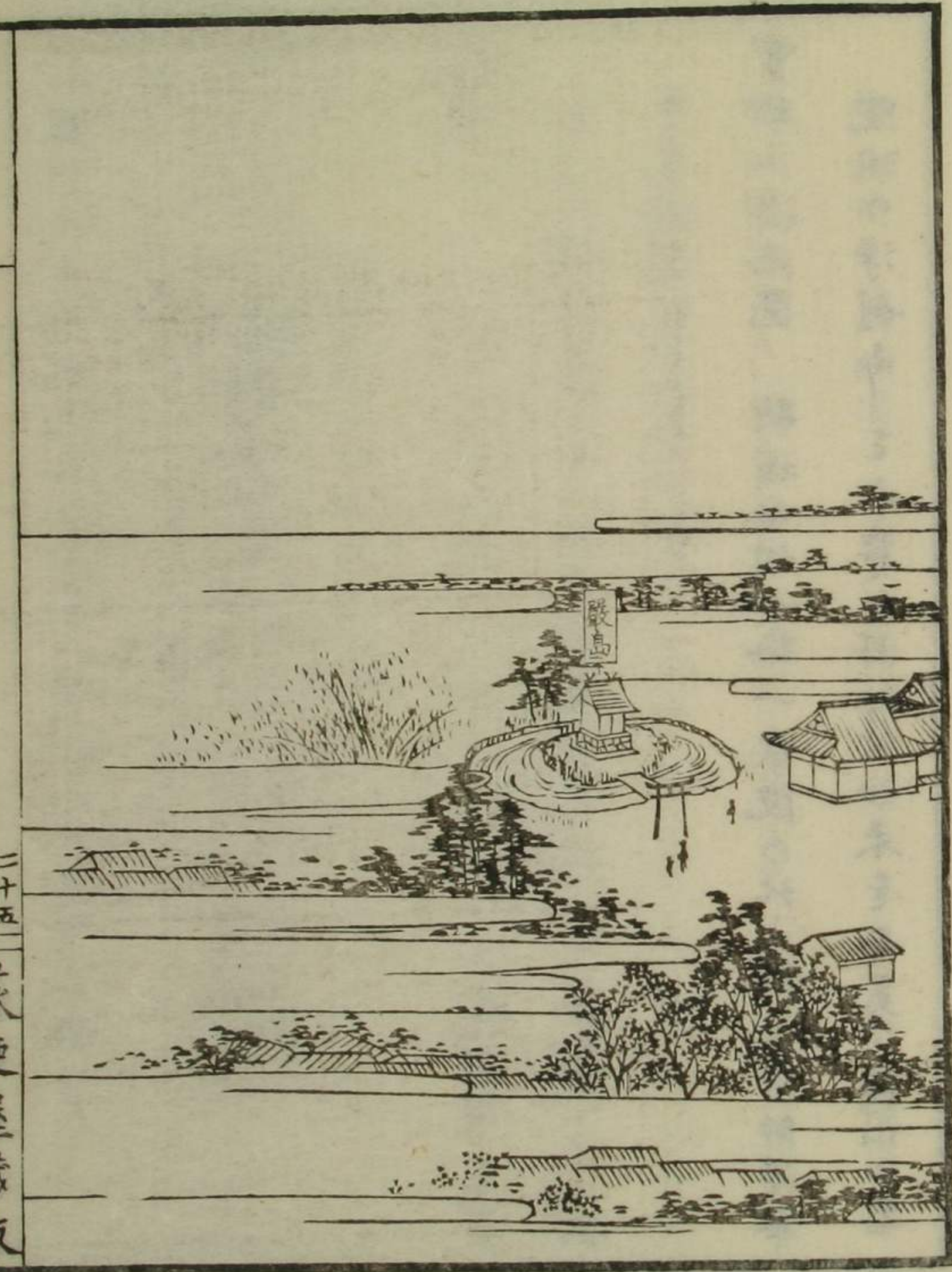
新堀
金毘羅社
法光院

二十四
上
大
西
屋
城
坂

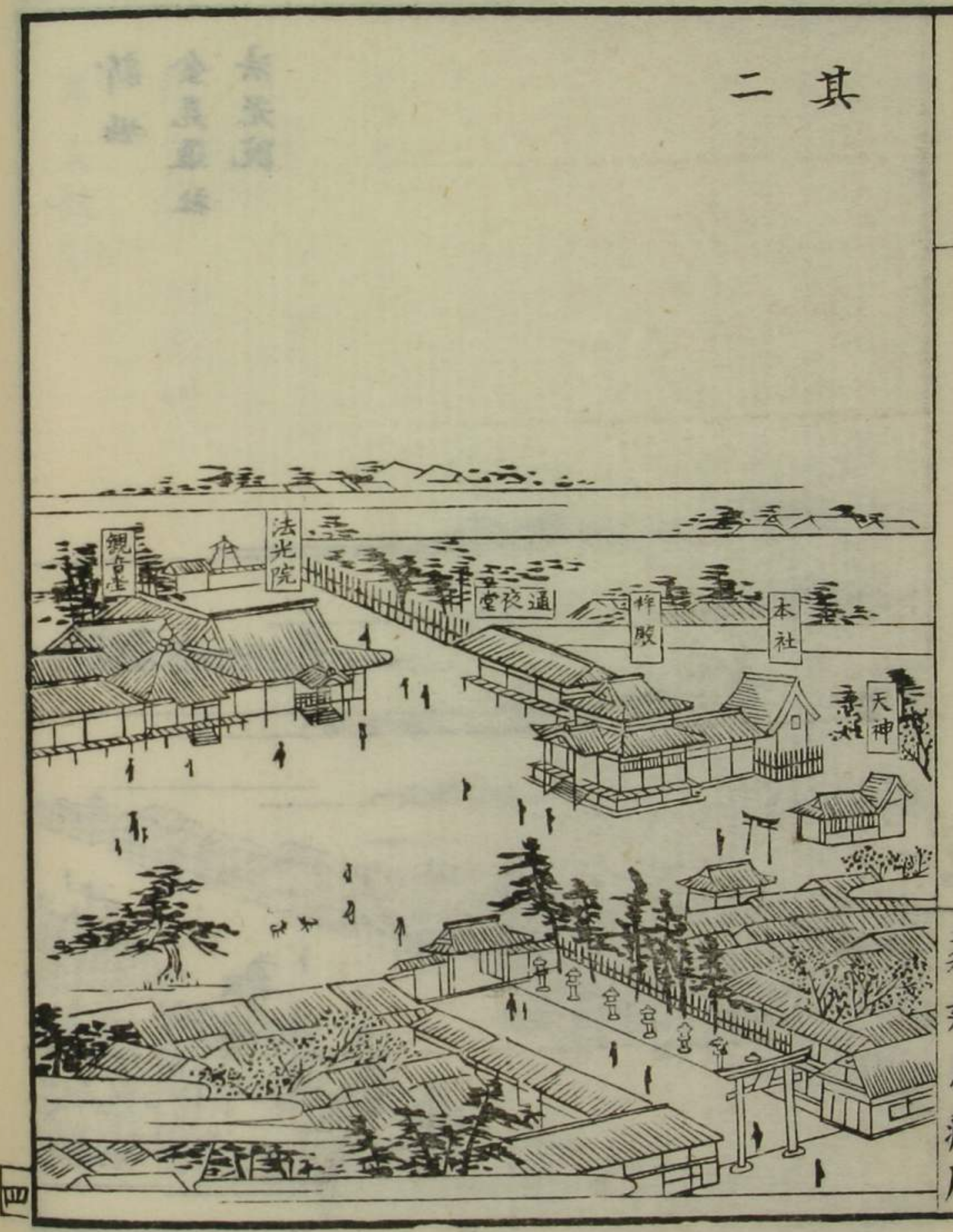
神よりを奇瑞多しとて人皆齋きかこみて終に法光院を
 かりて仮初に社を造營せり願主片河町々人某の一建立ちり
 いへり 田辺氏やまきの業祠ハ
法光院の裏門の所とす

瑞現山法光院 古義の真言にて満願寺に属す開山法印源
 秀みりて本尊十一面觀世音ハ山城國八幡村に住めり
 康尚といふ人の作る所なり 康尚ハ美濃の國の産原信といふ人の子
り初め一人のゆゑに此人の作りしを
りて八幡大井の示現により仙像を造

八幡大井の西作ると云仙像もちり
 當寺ハ始め山口冰上山の境
 内に在て大乘坊とすり慶長年中當所へ遷して今の
 号に改む



二十五
秋
西
屋
藏
板



其二

長
安
院
金
堂
佛
堂

四

未
知
屋
藏
片

客殿の扁額瑞現山の三字ハ寶鏡寺の宮の真跡なり

華表
一
二
三



銅金メツキ
法鏡寺宮の御真筆
集古十種
集古十種
集古十種

緞機屋下 ころこの御代よりきん京都より織物師を召

されて御装束あらハ御能衣裳等を織しめむ所にて此
号の残りころころりりり

重砂山蓮池院 新堀田畑小路一乘院の北に隣り京師淨華
院派の淨刹ありて本尊ハ阿弥陀如来を安置す開山ハ吞

雪和尚といふ相傳ふ和尚ハ豊後國の産大友氏の家臣護摩津
留大藏之丞といふりのり文武の達者なり 大照公の召に應
じ講讀御茶湯等ハ御伽に屢出たりしを其後江戸御在府
の砌吞雪在江戸のより江間しめされ即て芝の増上寺に修
學せしめむ折に浄屋形へも登上せしむていと御懇に
漸く三年を経て當所より一艸舎を營て住居せしむる
君たおく艸菴に御成りて所茶をも奉りり庭前を御
覧しむひ折ら池の蓮りとあそやうを賞美させむひ
やうて艸菴を蓮池菴とを仰られし夫より正保年間當

地を賜ひて則蓮池院とハ号けり

辨天堂

本堂の古より本号弁才天女ハ私法大師の作とシ縁起ハ曰夫弁才天女大黒天摩利支天ハ智仁勇三徳の尊神なり此弁才天ハ私法大師の作して正相國清盛入道の守護神なり一々平氏の一門壇浦入水のときどき海入て此濱辺を漂へり一々吞重高僧諸國修行々折の折らうかのほまべを通り一々真砂の中一弁才天の面の見へり々々をとり出懐りてまじ萍水浮雲と所定めはかくして津國兵庫法界寺ニ参詣し仙殿を拜せしに不思議なるを本尊弁才天女骸のこよて首をハミえす和尚則奇過を感し直に寺僧ニ尋ひて壇の浦の由来をとき此面を合せしと云ふへくもあはれりて符契を合すらう如く依て主信一此依を求めて持来り堂宇を建立して安置せし所なり云々

當寺再建棟簡左よりナ

勅願所 淨華院末寺

蓮池院開基尊譽吞雪長老

本山四十三代 依院宣再住緇林良故拜 朱印

長州阿武郡菽庄 重砂山号從淨華院 院号者大守大照院殿自讚 明曆第四戌歲仲春日

本堂 1 掲 3 所 の 額

重砂山

唐土三滝風筆

山田原欽墓

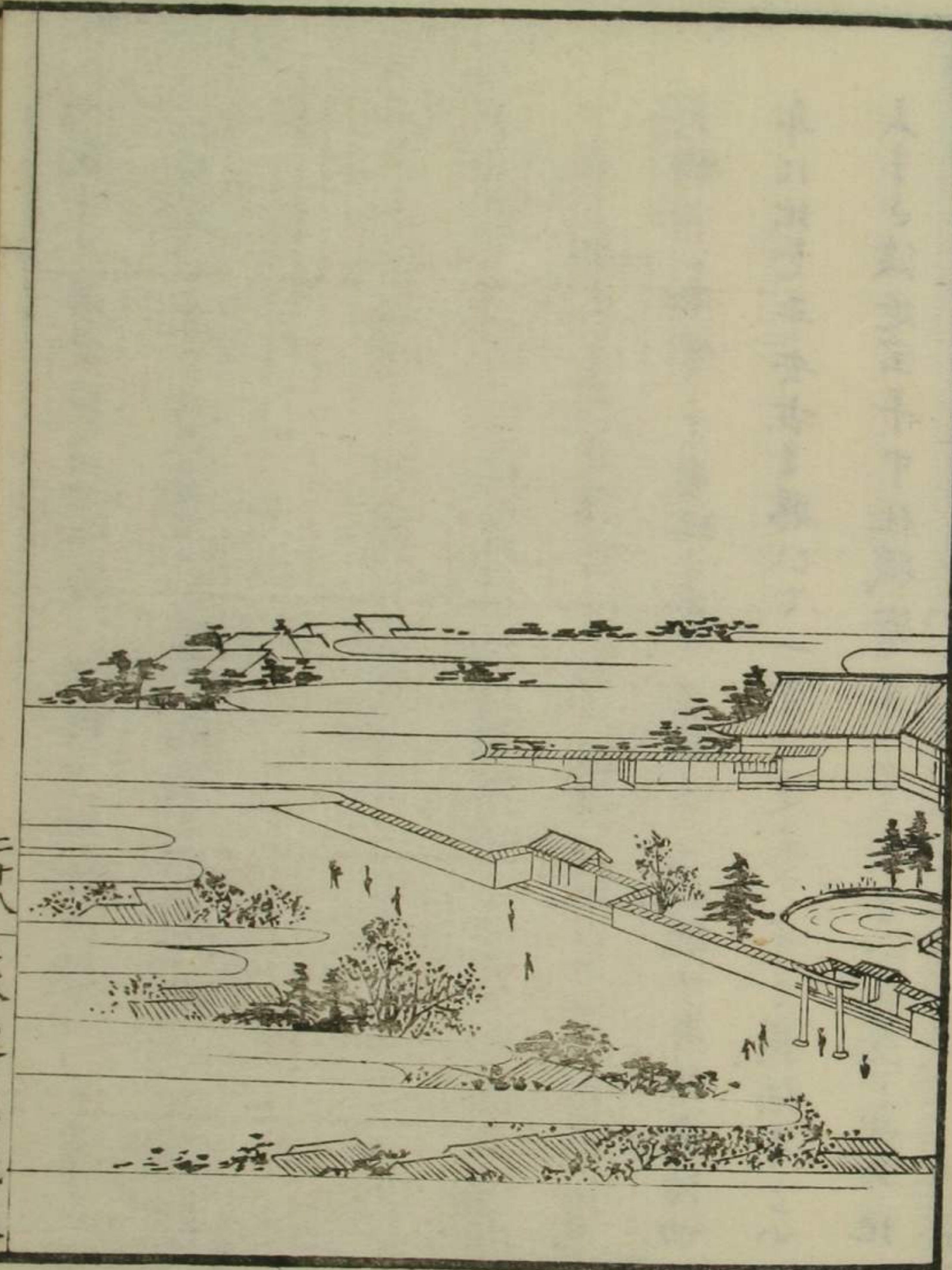
弁天堂の後よりありのつら石より中より復軒山田原欽熙右ニ元禄六年癸酉七月十四日歿左ニ壽二十八歳 響譽正學原欽居士とありてむ

靈鳳山西光寺

同所より對ふ一向宗よりて明圓寺より属す本

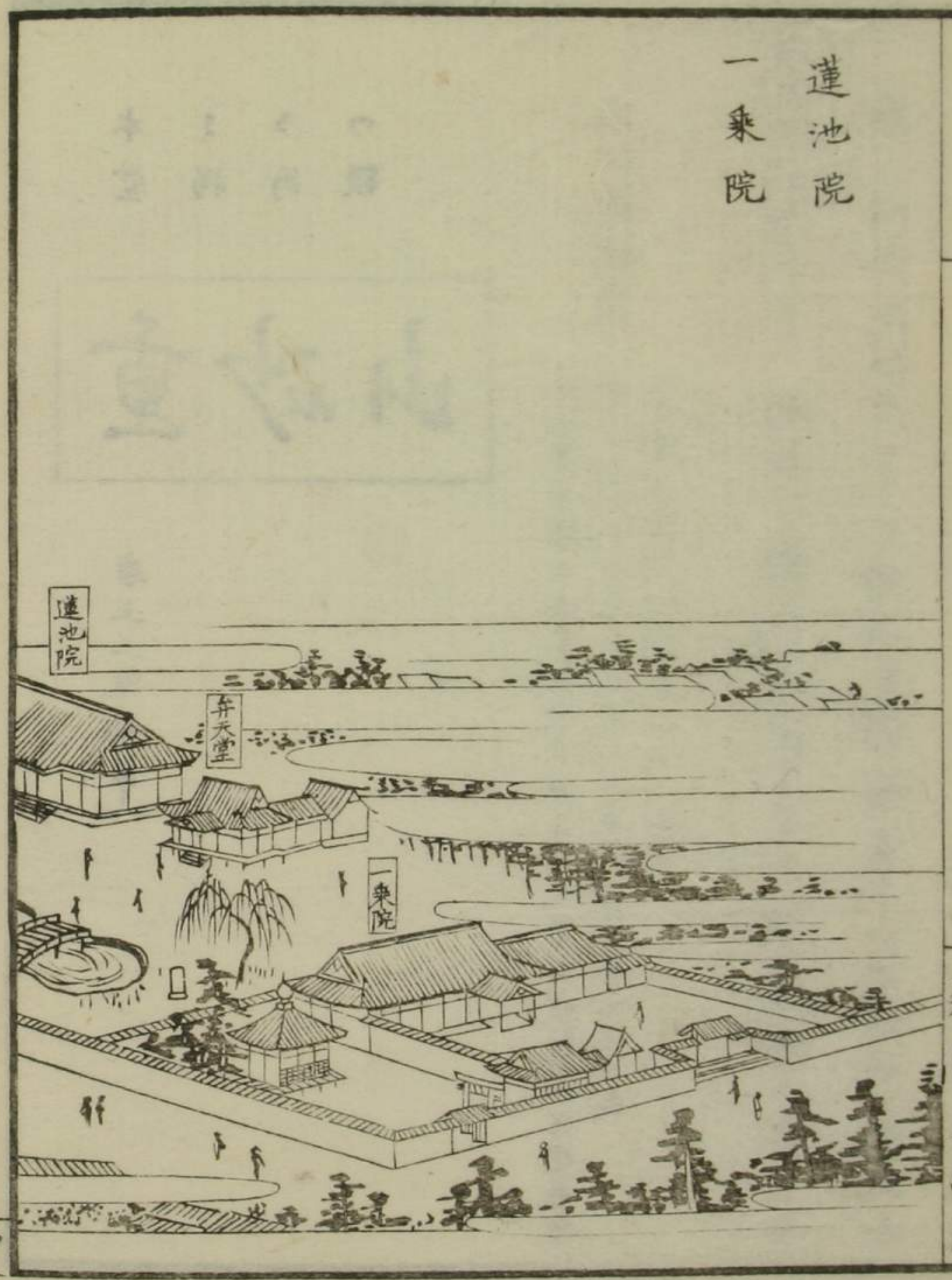
尊ハ阿弥陀如来よりて開山を釋祐玄といひ俗姓起美山

二十七 卷 地蔵藏板



二十八
 秋
 更
 羅
 載
 版

蓮池院
 一乘院



蓮池院

弁天堂

一乘院

永
 延
 曆
 癸
 卯

四

内記とて安藝國吉田の産 洞春公御側と仕へ人なりと
そ初御弓町と地を賜ふ寛永の比當所と迂りて一字を州
創したりとそ

醫王山一乘密院 長福寺と号は田畑小路あり新堀河岸此
角にあり古義の真言宗より満願寺に属す初藝州吉田
よりあり開山を真覺僧都といふ中興源政房宥英ハ慶長年間
天樹公より御供して當地に來り満願寺に住職す其後萬治四
年に地を平安古より賜ひて一寺を建立す号て長福寺とい
ふまゝ後延宝年中住職宥算より号を一乘院と改め地

もまゝ當所より迂す客殿本尊不動明王の像ハ智證大師の作
りて脇士ハ矜伽羅勢多伽らり

薬師堂

本堂の左よりあり本多薬師如来ハ惠心僧都の作り棟札に云阿
武郡蘇津平安古一乘院當住権大僧都宥算延宝三卯月日棟梁高
原久兵衛大工高原又兵衛
山縣忠兵衛とあり外畧之

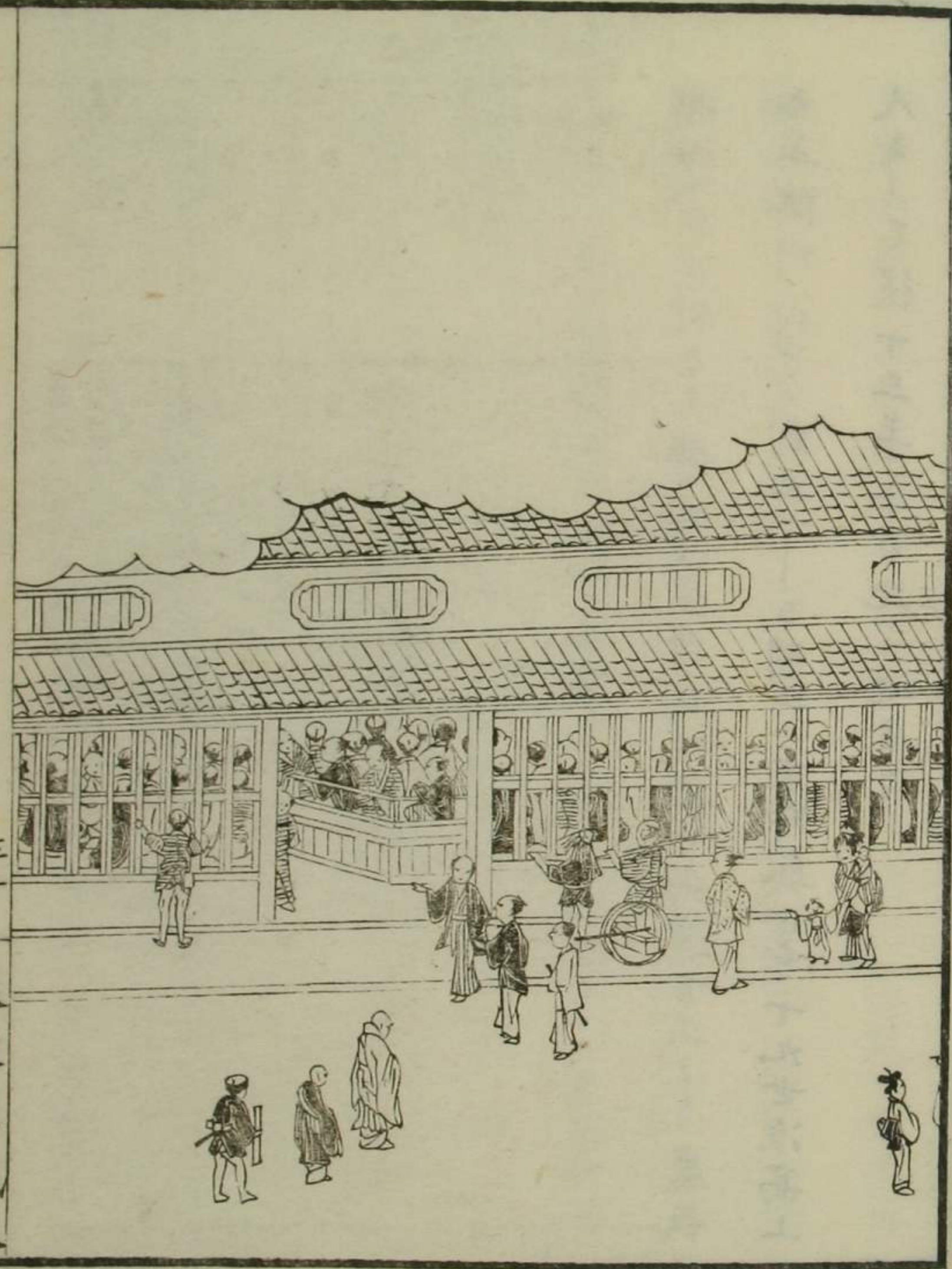
萬松山明圓寺 尾町相模屋呉服店の左に隣り一向宗よりて

藝州廣島明教寺に属す開山ハ祐甫字ハ教圓と号す本尊阿

弥陀如来ハ御長二尺六寸の坐像あり

此本寺安藝の吉田にありて
州舎に安置しより怪異あり
寺記に曰其初め藝

州に在て鎮西派の浄社より同國甲立邑高林坊住僧西



三十一
新堀

新堀
相場所
延宝八年新堀川
出来享保五年植松



新堀
相場所

願といつもの 福間氏某の先祖ありといふ 當寺に來り住職して宗風を改む

後慶長の中比當所遷して建立せし所あり

寺宝 開山祐甫へ賜はる所の綸旨 一軸

御客屋 瓦町の東詰あり他國より使者等の來りしときの

客館あり

清光寺 西田町熊谷丁に入る左側にあり一向宗にして京都本

願寺の末刹あり輝元公室清光院殿の御遺言あり慶長

九年防州山口に創立せし開山ハ京師興正寺十九世准高上

人ありて後十三年今の地に移さる

本尊阿彌陀如来毎年十一月報恩講の時ハ宗徒の老若日

夜参詣ひきも起らすいと賑はるり又門前の筋塀ハ延享二年

ハ其筋のゆるしを得て築きしものなり一寺ハ名譽といふ

へ

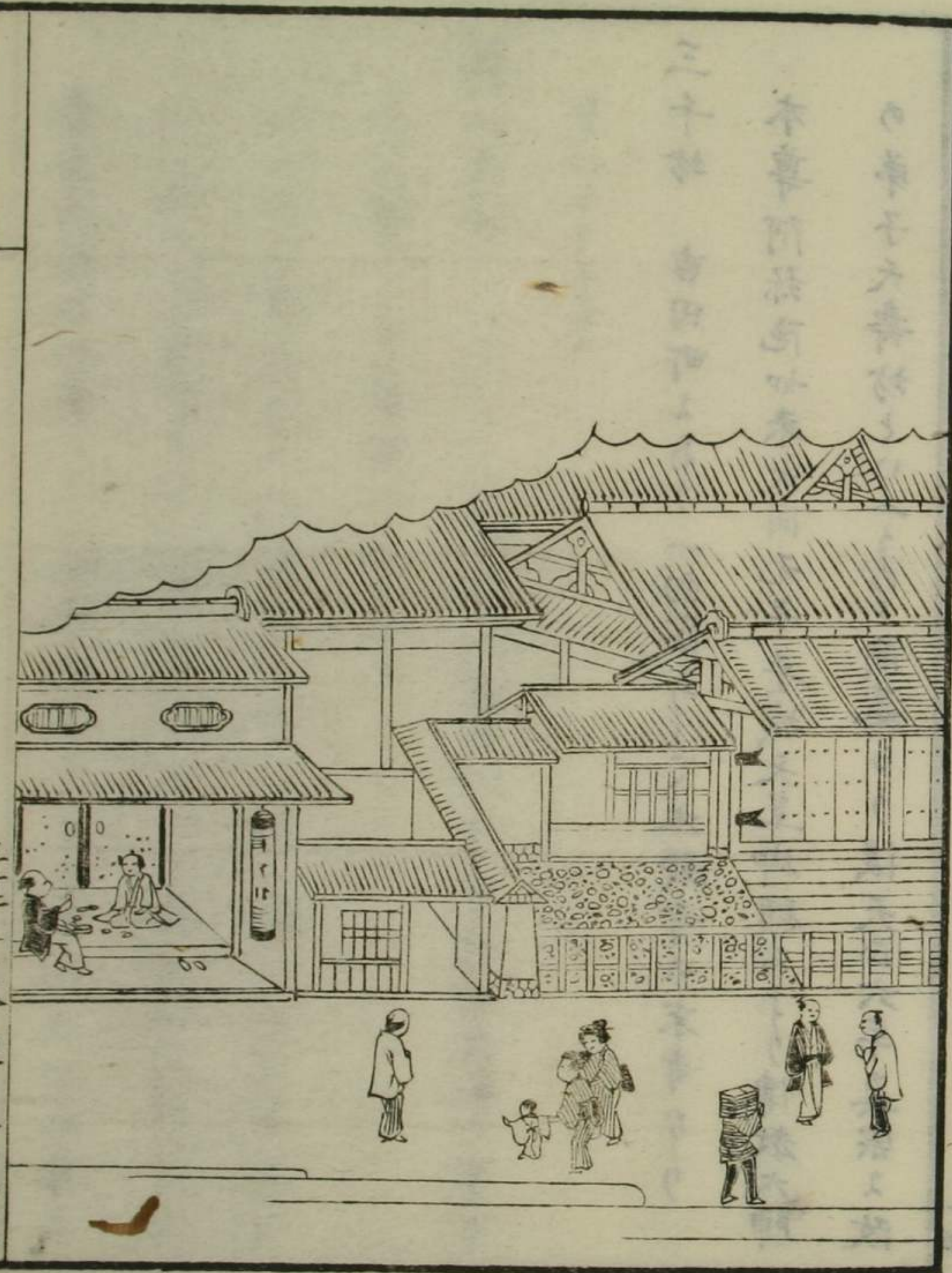
光善寺 東田町にあり真宗にして本願寺の末派あり本尊

阿彌陀如来創建の年月詳らざるすしめ山口姫山にあり

禅宗の一刹ありて医王寺と号し元和年間改宗教地に移り

寛永十年今の寺号に改むといふ

光明坊 上五間町にあり一向宗にして本願寺の末派なり



本尊阿弥陀如来ハ元小松寺ニありて平重盛卿の守本尊ト
リハ傳ハ創建年月詳ラズハハ安藝國高田郡下小原
村ニあり慶長五年本郡佐々並村一坂ニ移シ同九年今の
地を賜リテ移轉セリト云

藤江落雁 いりへ八重とき八景の一ありて佐世屋敷の裏手
をいへりト云

三千坊 吉田町ニあり一向宗ありて本願寺の末寺なり
本尊阿弥陀如来大同元年平城天皇御願ニより傳教大師
の弟子天壽坊といふもの開基あり後天正六年真宗ニ改

四

め慶長三年八月今の地ニ移轉セリト云

瑞玄山報恩寺 津守町ニあり浄土宗智恩院末派ありて常
念寺ニ属す本尊阿弥陀如来創建年月詳ラズハハ心
徳寺ト号シ元和三年今の寺号ニ改むト云

端坊 惠美須町ニあり一向宗ありて本願寺末派なり本尊
阿弥陀如来創始年月詳ラズハハ開基明源俗姓大場空権
頭景明後深州院北面の武士ありて高祖親鸞上人の直弟ト
ナリ城州山科ニ州菴を結ビテ建武の乱ニ焼失セリ
依テ渋谷興正寺を賴シ一字を建立シ興正寺境内六坊の

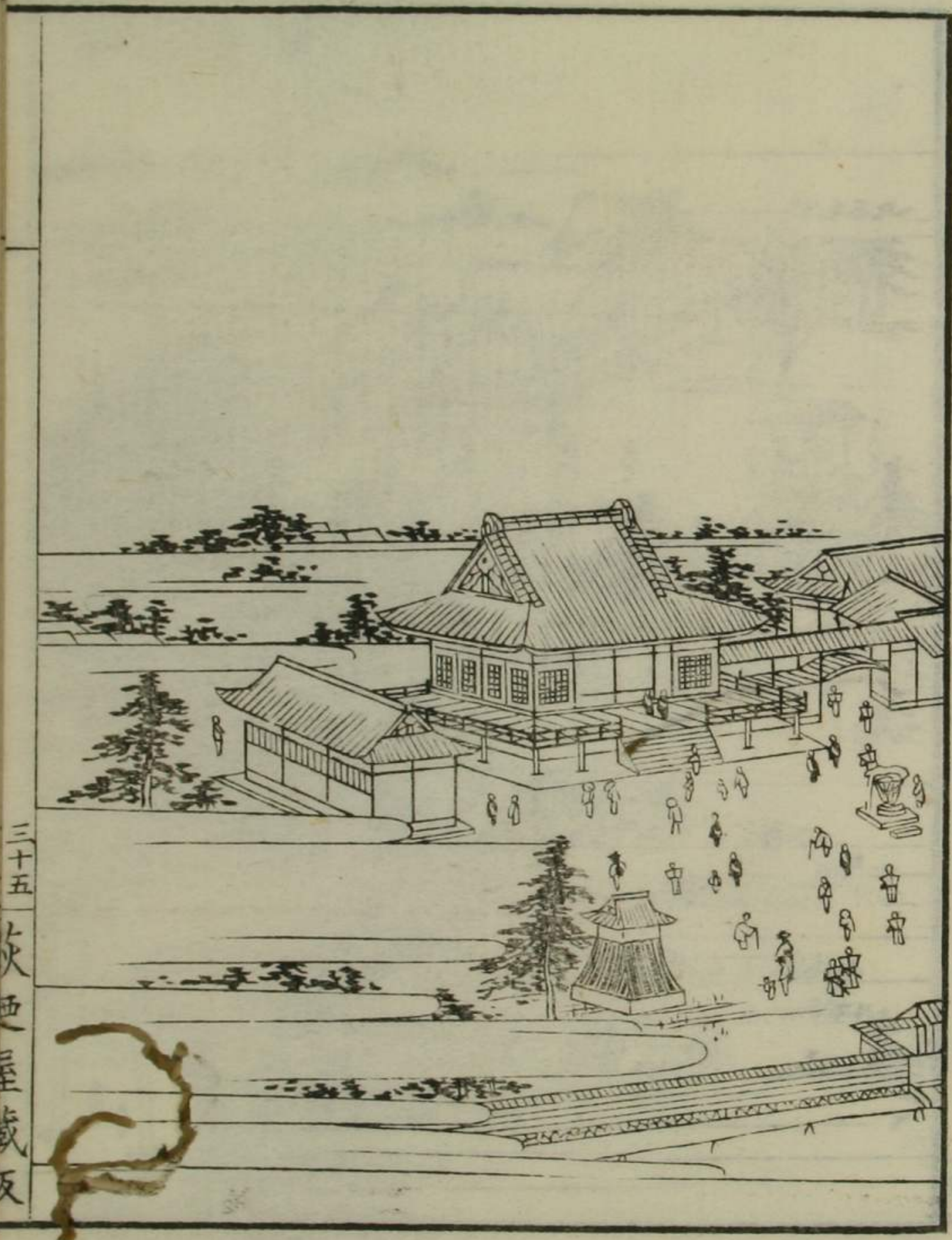
内其端一住すよりて端坊と号す後故ありて破却せり
慶長八年本願寺に願ひ六條の寺内一端坊を建立す十三
世明善一至り御城下一一字を建立せんことを願ひ即て今
の地を賜へりといふ

松原山法華寺 惠美須町一あり日蓮宗ありて防長二州法
華の第一座とす往昔ハ松原の中央にありてを以て山号と
すちといふ開基詳々なり慶長八九年の比ハ創始といふ
相傳ふち一め下総國正中山法華經寺六世日典當國より
下り建立せしを以て其末派より一後京都本法寺を本

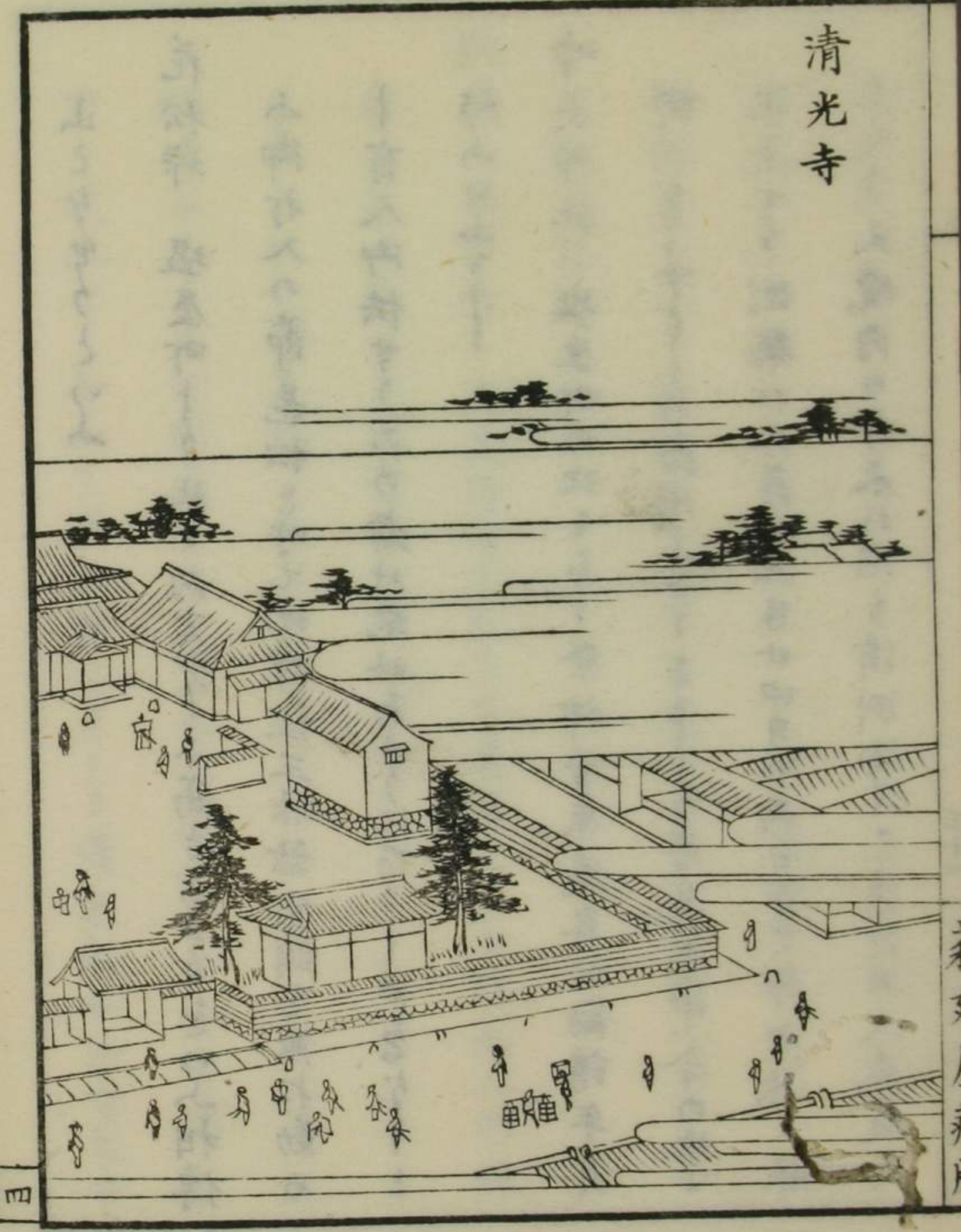
山と名せりといふ

花松塚 塩屋町より北一向一少一高きありをいふ相傳
小御打入の節花松と呼て地神經三味絃座頭を兼ね勤め
一盲人御供せりあり者此宅此ありにあり一ゆるなりと
いふいふ

峠天神社 塩屋町の北一あり祭神菅原道真公勸請年月
詳々ありすち一め防州山口一あり一慶長年中今の地一
遷座せり例祭ハ九月廿三日廿四日の兩日一市中殊一賑
々一又境内の井水ハ尤も清冽ありて遠近のハ盛夏



三十五
 次
 延
 屋
 藏
 反

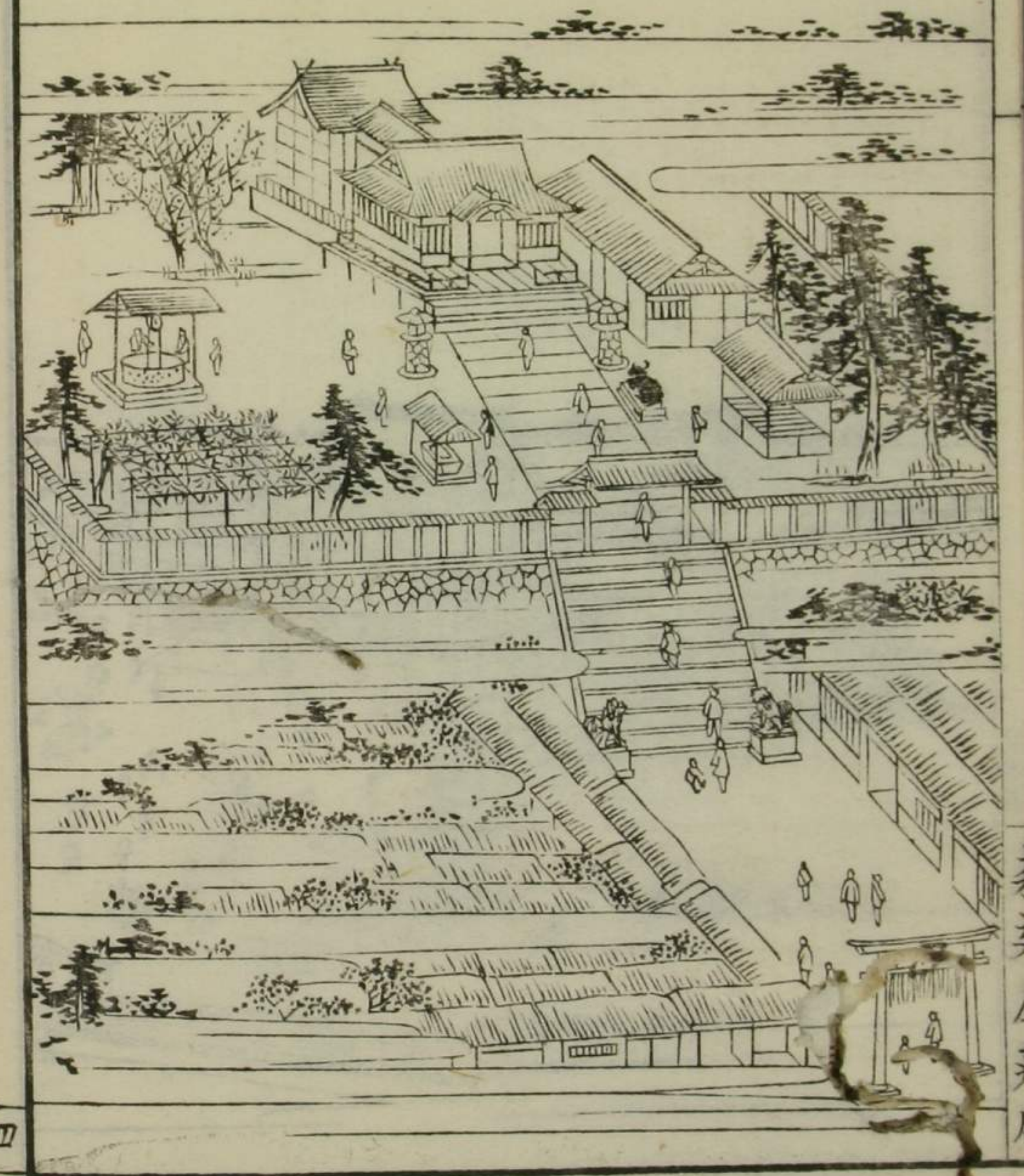


清光寺

四

新
 延
 屋
 藏
 版

峠天満宮



候より来りて飲料に為す所の多し

涼松山長壽寺 北古萩町よりあり西山派の浄刹ありて京都
 禅林寺粟生光明寺の両末派より開山一空上人夜欣和尚
 よりめ山口長壽寺より住し輝元公御お入の節召出されま
 長十九年此地より一字を建立隠居處とせしめられしなり

八江菽名所圖画卷之四終

身下... 山... 野... 京...

